

Ⅲ 調査の集計結果

Ⅲ 調査の集計結果

1 地産地消について

(1) 地産地消という言葉や意味について

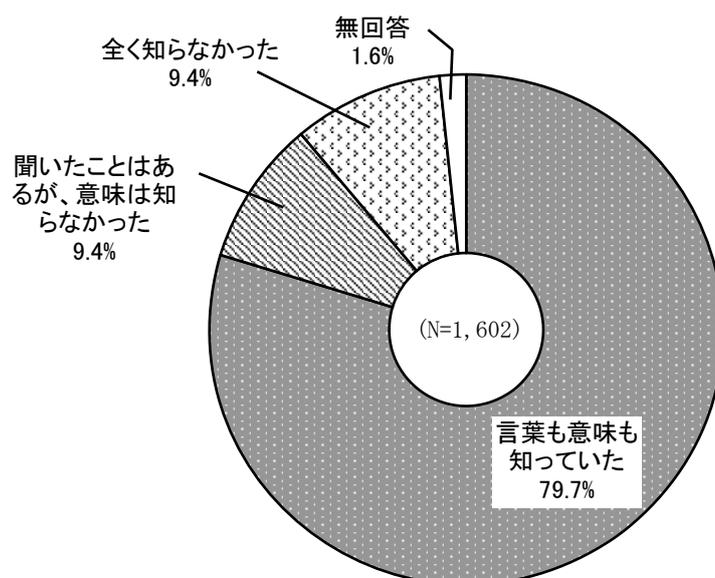
問1 地産地消という言葉や意味を知っていましたか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,602]

1 言葉も意味も知っていた	79.7%
2 聞いたことはあるが、意味は知らなかった	9.4%
3 全く知らなかった	9.4%
(無回答)	1.6%

地産地消という言葉や意味については、「言葉も意味も知っていた」が79.7%と8割近くを占め、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」、「全く知らなかった」はともに9.4%となっている。

< 地産地消という言葉や意味について >



性別にみると、男女とも「言葉も意味も知っていた」が約8割を占めており、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は男女とも9.3%、「全く知らなかった」は『男性』が8.2%、『女性』が10.0%となっている。

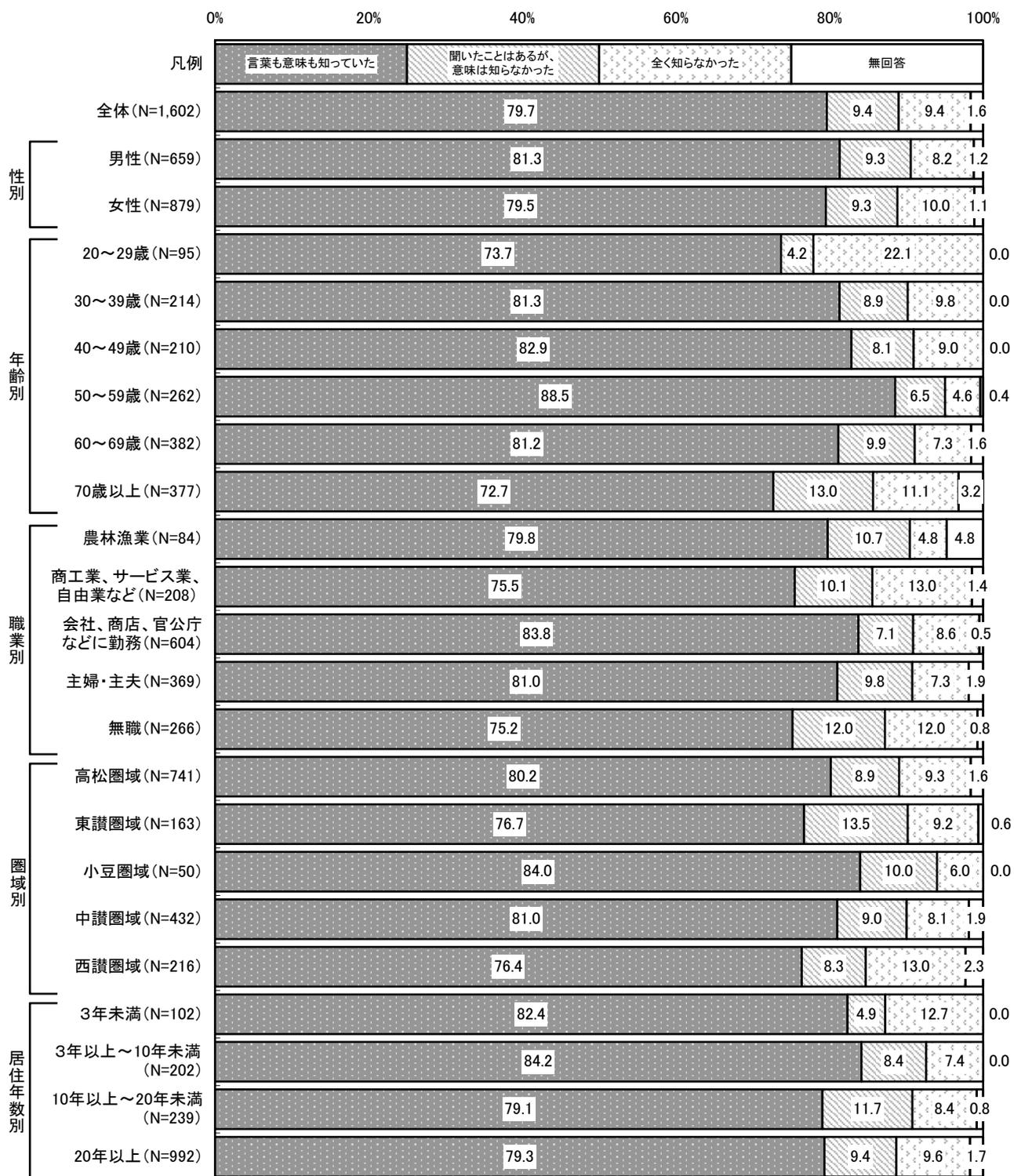
年齢別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が7割を超えており、特に『50～59歳』では88.5%と9割近くを占める。一方で、「全く知らなかった」はほとんどが約1割であるが、『20～29歳』では22.1%とその他の年齢層よりも多くなっている。

職業別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が7割を超えているが、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』は83.8%、『主婦・主夫』は81.0%と8割を超えている。また、「全く知らなかった」については『農林漁業』が4.8%となっており、最も低くなっている。

圏域別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が7割を超えており、特に『高松圏域』は80.2%、『小豆圏域』は84.0%、『中讃圏域』は81.0%と8割を超える。

居住年数別にみると、いずれも「言葉も意味も知っていた」が7割を超えており、特に『3年未満』は82.4%、『3年以上～10年未満』は84.2%と8割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地産地消という言葉や意味について



(2) 産地にこだわって食材を購入しているか

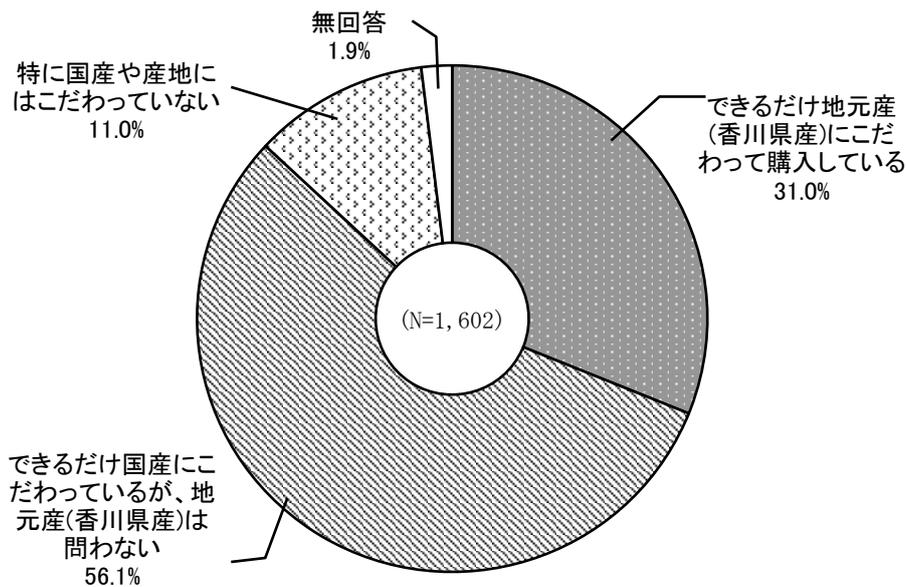
問2 あなたの家庭では、産地にこだわって食材を購入していますか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,602]

1	できるだけ地元産(香川県産)にこだわって購入している	31.0%
2	できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない	56.1%
3	特に国産や産地にはこだわっていない	11.0%
	(無回答)	1.9%

産地にこだわって食材を購入しているかについては、「できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない」が56.1%と半数を超え最も高く、次いで「できるだけ地元産(香川県産)にこだわって購入している」が31.0%、「特に国産や産地にはこだわっていない」が11.0%となっている。

〈 産地にこだわって食材を購入しているか 〉



性別にみると、男女とも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない」が半数を超え最も高く、次いで「できるだけ地元産(香川県産)にこだわって購入している」が『男性』24.6%、『女性』35.7%となっている。

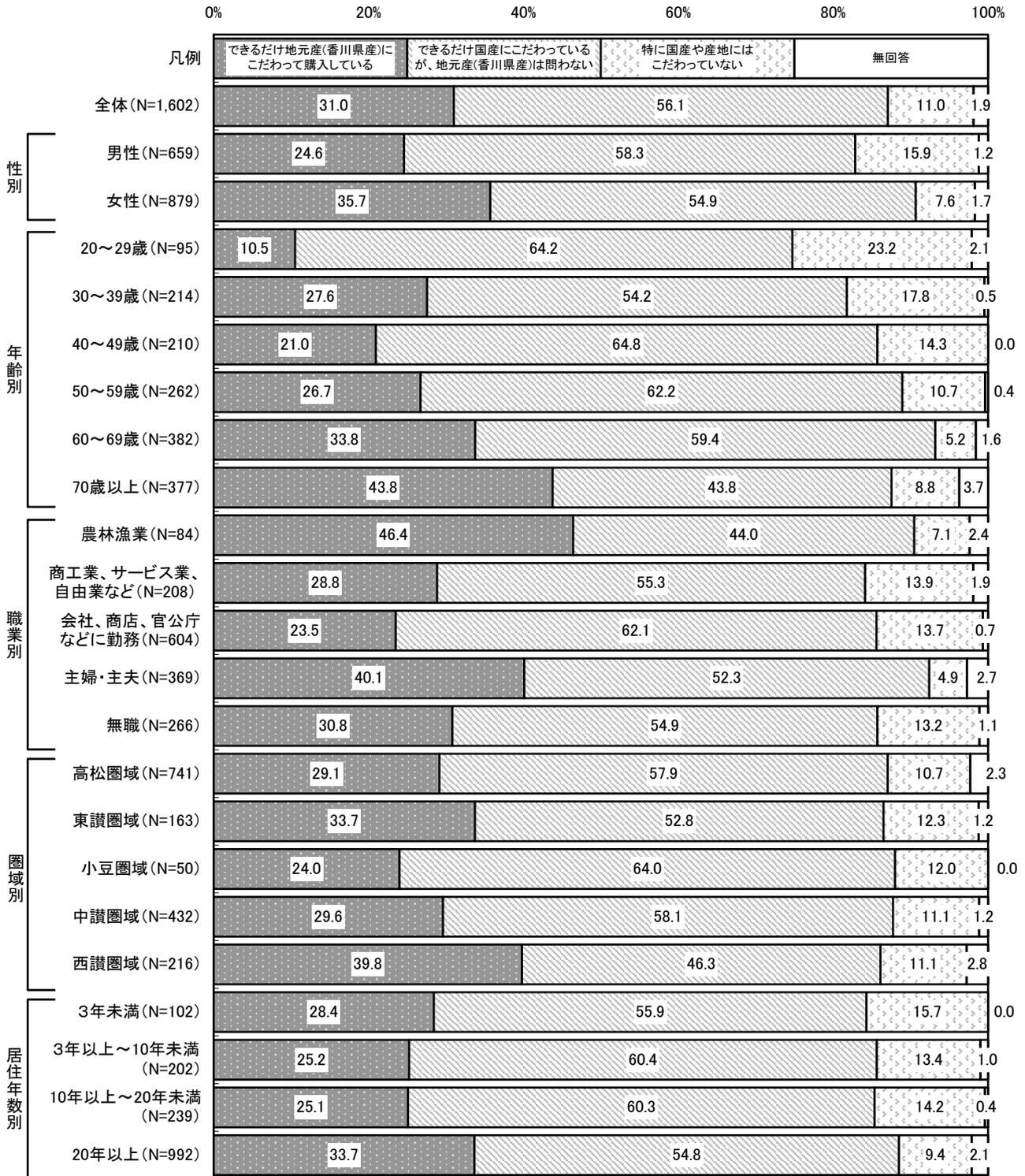
年齢別にみると、いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない」が4割を超え最も高くなっている。『70歳以上』では、「できるだけ地元産(香川県産)にこだわって購入している」も同じく43.8%となっており、他の年齢層に比べ地元産(香川県産)にこだわっている割合が多いといえる。また、『20～29歳』では、「できるだけ地元産(香川県産)にこだわって購入している」が10.5%、「特に国産や産地にはこだわっていない」が23.2%と、他の年齢層に比べて産地にこだわっての購入が低い傾向にあるといえる。

職業別にみると、ほとんどが「できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない」が半数を超え最も高くなっているが、『農林漁業』については「できるだけ地元産(香川県産)にこだわって購入している」が46.4%と、「できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない」の44.0%を超えて最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない」が4割を超え最も高くなっている。特に『小豆圏域』については64.0%と6割を超えている。

居住年数別にみると、いずれも「できるだけ国産にこだわっているが、地元産(香川県産)は問わない」が半数を超え最も高くなっている。特に「3年以上～10年未満」は60.4%、「10年以上～20年未満」は60.3%と6割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
産地にこだわって食材を購入しているか



(3) 地元産（香川県産）にこだわって食材を購入している理由

<問2で「1」と答えた方にお聞きします>

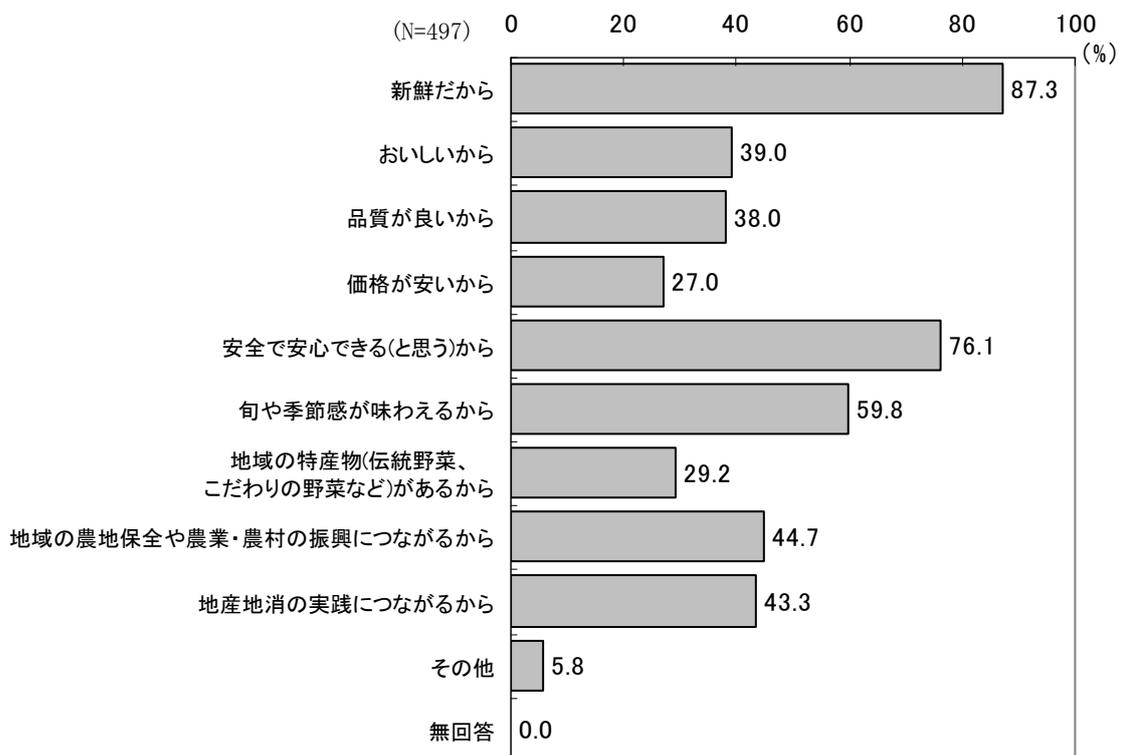
付問1 その理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=497]

1	新鮮だから	87.3%
2	おいしいから	39.0%
3	品質が良いから	38.0%
4	価格が安いから	27.0%
5	安全で安心できる(と思う)から	76.1%
6	旬や季節感が味わえるから	59.8%
7	地域の特産物(伝統野菜、こだわりの野菜など)があるから	29.2%
8	地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから	44.7%
9	地産地消の実践につながるから	43.3%
10	その他(具体的に：)	5.8%
	(無回答)	0.0%

地元産（香川県産）にこだわって食材を購入している理由については、「新鮮だから」が87.3%と9割近くを占め最も高く、次いで「安全で安心できる(と思う)から」が76.1%、「旬や季節感が味わえるから」が59.8%、「地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから」が44.7%、「地産地消の実践につながるから」が43.3%などとなっている。

< 地元産（香川県産）にこだわって食材を購入している理由 >



性別にみると、男女とも「新鮮だから」が最も高く、その比率は『男性』が82.7%、『女性』が90.1%で、これに、男女とも「安全で安心できる（と思う）から」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では「安全で安心できる（と思う）から」が最も高くなっており、『30～39歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「新鮮だから」が最も高くなっている。これに、『20～29歳』、『40～49歳』では「新鮮だから」が、『30～39歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では安全で安心できる（と思う）から」が続いている。

職業別にみると、いずれも「新鮮だから」が最も高くなっており、特に『農林漁業』は92.3%、『主婦・主夫』は94.6%と9割を超えている。これに、いずれも「安全で安心できる（と思う）から」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「新鮮だから」が8割を超えて最も高くなっており、これに、いずれも「安全で安心できる（と思う）から」が7割を超えて続いている。

居住年数別にみると、いずれも「新鮮だから」が8割を超えて最も高くなっている。これに、いずれも「安全で安心できる（と思う）から」が続いており、特に『3年未満』では82.8%と8割を超えている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地元産（香川県産）にこだわって食材を購入している理由**

（単位：％）

区分		回答者数（人）	新鮮だから	おいしいから	品質が良いから	価格が安いから	安全で安心できる（と思う）から	旬や季節感が味わえるから	地域の特産物（伝統野菜、こだわりの野菜など）があるから	地域の農地保全や農業・農村の振興につながるから	地産地消の実践につながるから	その他	無回答
全体		497	87.3	39.0	38.0	27.0	76.1	59.8	29.2	44.7	43.3	5.8	0.0
性別	男性	162	82.7	38.3	40.7	28.4	75.3	59.3	30.9	48.1	43.2	6.2	0.0
	女性	314	90.1	39.5	36.0	26.4	76.8	59.9	28.0	44.3	43.0	6.1	0.0
年齢別	20～29歳	10	80.0	30.0	50.0	10.0	90.0	30.0	0.0	20.0	30.0	0.0	0.0
	30～39歳	59	78.0	32.2	27.1	28.8	74.6	57.6	22.0	39.0	23.7	1.7	0.0
	40～49歳	44	77.3	31.8	31.8	20.5	79.5	40.9	29.5	50.0	45.5	9.1	0.0
	50～59歳	70	87.1	42.9	40.0	32.9	75.7	61.4	34.3	48.6	44.3	8.6	0.0
	60～69歳	129	93.0	41.9	36.4	26.4	76.0	68.2	26.4	43.4	47.3	4.7	0.0
	70歳以上	165	90.3	40.6	42.4	27.9	75.8	60.0	33.3	49.1	46.7	7.3	0.0
職業別	農林漁業	39	92.3	38.5	35.9	35.9	74.4	61.5	38.5	51.3	61.5	10.3	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	60	85.0	35.0	40.0	18.3	76.7	56.7	33.3	48.3	40.0	5.0	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	142	80.3	32.4	34.5	23.2	76.1	50.7	26.8	46.5	40.8	3.5	0.0
	主婦・主夫	148	94.6	48.0	40.5	34.5	78.4	66.9	28.4	43.9	44.6	7.4	0.0
	無職	82	86.6	39.0	37.8	25.6	74.4	64.6	28.0	43.9	39.0	7.3	0.0
圏域別	高松圏域	216	85.6	34.7	37.0	25.0	76.9	63.9	31.9	43.5	45.8	3.2	0.0
	東讃圏域	55	92.7	30.9	30.9	29.1	76.4	45.5	23.6	36.4	47.3	3.6	0.0
	小豆圏域	12	83.3	41.7	33.3	33.3	75.0	66.7	16.7	41.7	33.3	8.3	0.0
	中讃圏域	128	85.9	46.9	43.0	26.6	75.0	58.6	30.5	50.8	39.1	10.2	0.0
	西讃圏域	86	90.7	43.0	38.4	30.2	75.6	59.3	25.6	44.2	41.9	7.0	0.0
居住年数別	3年未満	29	89.7	37.9	41.4	31.0	82.8	69.0	34.5	55.2	37.9	3.4	0.0
	3年以上～10年未満	51	80.4	23.5	37.3	23.5	76.5	43.1	23.5	41.2	35.3	5.9	0.0
	10年以上～20年未満	60	90.0	31.7	28.3	26.7	71.7	70.0	26.7	40.0	43.3	10.0	0.0
	20年以上	334	88.3	43.1	38.9	27.5	76.6	59.6	29.9	46.4	44.9	5.7	0.0

(4) 地元産（香川県産）にこだわって食材を購入していない理由

＜問2で「2」または「3」と答えた方にお聞きします＞

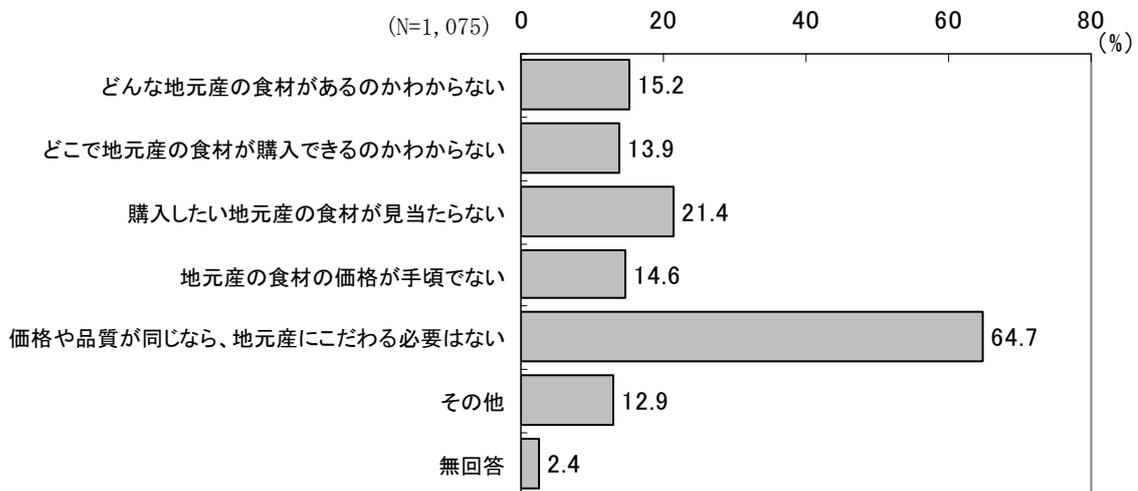
付問2 地元産(香川県産)の食材にこだわらない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=1,075]

1	どんな地元産の食材があるのかわからない	15.2%
2	どこで地元産の食材が購入できるのかわからない	13.9%
3	購入したい地元産の食材が見当たらない	21.4%
4	地元産の食材の価格が手頃でない	14.6%
5	価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない	64.7%
6	その他（具体的に：)	12.9%
	(無回答)	2.4%

地元産（香川県産）にこだわって食材を購入していない理由については、「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が64.7%と6割を超え最も高く、次いで「購入したい地元産の食材が見当たらない」が21.4%、「どんな地元産の食材があるのかわからない」が15.2%などとなっている。

＜ 地元産（香川県産）にこだわって食材を購入していない理由 ＞



性別にみると、男女とも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が6割を超え最も高く、その比率は『男性』が63.6%、『女性』が66.4%で、これに、男女とも「購入したい地元産の食材が見当たらない」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が最も高く、特に『20～29歳』は75.9%、『50～59歳』は71.2%と7割を超えている。これに、『20～29歳』は「地元産の食材の価格が手頃でない」が続き、その他の年齢層では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が続いている。

職業別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が最も高く、これに、『無職』は「どこで地元産の食材が購入できるのかわからない」が続き、その他の職業では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が6割を超え最も高く、これに、いずれも「購入したい地元産の食材が見当たらない」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「価格や品質が同じなら、地元産にこだわる必要はない」が6割を超え最も高く、これに『3年未満』は「地元産の食材の価格が手頃でない」が続き、その他の居住年数では「購入したい地元産の食材が見当たらない」が続いている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地元産（香川県産）にこだわって食材を購入していない理由**

（単位：％）

区分		回答者数（人）	わからない どんな地元産の 食材があるのか	どこで地元産の 食材が購入でき るかわからない	購入したい 地元産の食材が 見当たらない	地元産の食材の 価格が手頃でない	価格や品質が 同じなら、地元 産にこだわる必要 はない	その他	無回答
全体		1,075	15.2	13.9	21.4	14.6	64.7	12.9	2.4
性別	男性	489	15.7	16.4	20.4	13.3	63.6	14.3	2.2
	女性	550	14.0	11.1	22.9	16.0	66.4	12.0	2.5
年齢別	20～29歳	83	10.8	7.2	18.1	19.3	75.9	4.8	3.6
	30～39歳	154	15.6	12.3	20.8	16.9	65.6	11.0	1.3
	40～49歳	166	17.5	10.2	21.1	17.5	59.6	13.9	1.8
	50～59歳	191	13.6	13.1	23.6	14.1	71.2	9.9	1.6
	60～69歳	247	16.2	16.6	23.9	11.7	61.1	19.8	3.2
	70歳以上	198	13.1	16.7	20.2	13.1	63.1	12.1	3.5
職業別	農林漁業	43	14.0	7.0	27.9	16.3	58.1	16.3	0.0
	商工業、サービス業、 自由業など	144	13.2	14.6	20.8	12.5	66.7	10.4	3.5
	会社、商店、官公庁 などに勤務	458	15.9	12.4	20.7	15.1	67.0	10.9	1.7
	主婦・主夫	211	12.8	11.8	26.1	15.2	62.6	14.7	3.3
	無職	181	16.0	19.3	18.8	14.9	63.0	17.7	3.3
圏域別	高松圏域	508	14.8	14.4	22.8	14.2	65.0	12.8	2.8
	東讃圏域	106	14.2	13.2	23.6	17.0	61.3	9.4	4.7
	小豆圏域	38	28.9	15.8	26.3	15.8	65.8	5.3	0.0
	中讃圏域	299	16.7	16.1	17.7	14.0	64.9	14.0	2.0
	西讃圏域	124	9.7	6.5	21.0	15.3	66.1	16.1	0.8
居住年数別	3年未満	73	17.8	11.0	6.8	21.9	65.8	12.3	1.4
	3年以上～10年未満	149	14.8	10.7	27.5	12.1	61.1	16.8	4.7
	10年以上～20年未満	178	14.0	14.0	16.9	12.4	67.4	12.9	1.7
	20年以上	637	14.8	14.4	23.5	15.1	65.0	12.4	2.4

(5) 地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店の利用について

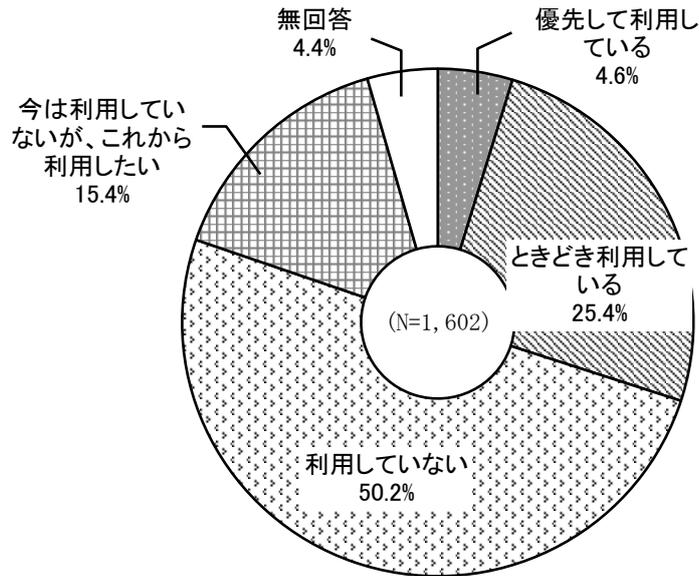
問3 県内には地元産(香川県産)の食材にこだわって料理を提供する飲食店などがありますが、優先して利用していますか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,602]

1 優先して利用している	4.6%
2 ときどき利用している	25.4%
3 利用していない	50.2%
4 今は利用していないが、これから利用したい	15.4%
(無回答)	4.4%

地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店の利用については、「利用していない」が50.2%と半数を占め最も高くなっている。一方、「優先して利用している」が4.6%で、これに「ときどき利用している」の25.4%を合わせた【利用している】は30.0%となっている。また、「今は利用していないが、これから利用したい」は15.4%となっている。

< 地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店の利用について >



性別にみると、男女とも「利用していない」が最も高く、その比率は『男性』が 57.4%、『女性』が 46.1%で、これに、男女とも「ときどき利用している」が続いている。

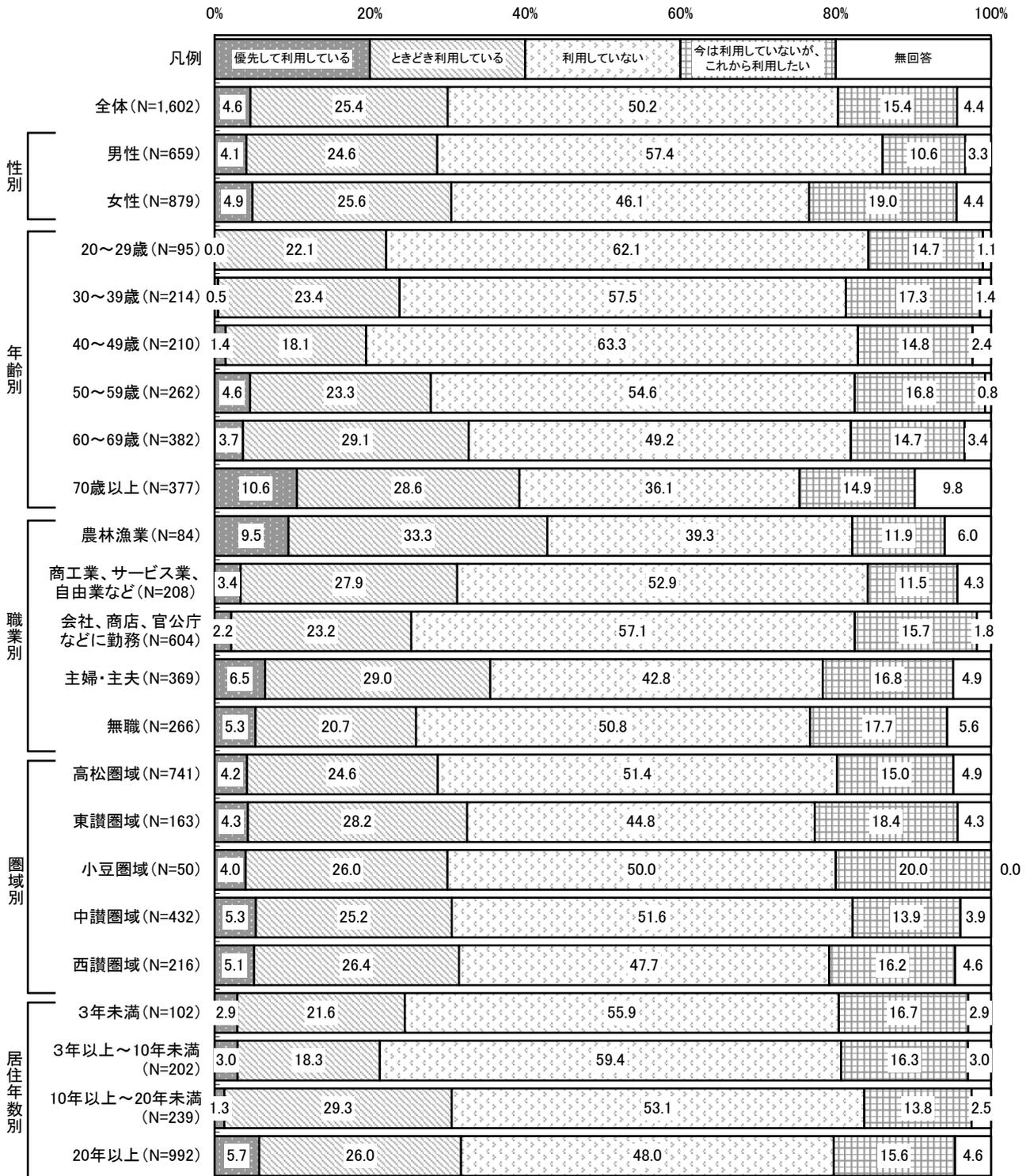
年齢別にみると、いずれも「利用していない」が最も高く、これに、いずれも「ときどき利用している」が続いている。また、『70歳以上』は「優先して利用している」が 10.6%と、その他の年齢層に比べ高く、「ときどき利用している」の 28.6%を加えた【利用している】は 39.2%で、「利用していない」を上回る。一方、『20～29歳』では「優先して利用している」が 0.0%となっている。

職業別にみると、いずれも「利用していない」が最も高く、これに、いずれも「ときどき利用している」が続いている。また、『農林漁業』は「優先して利用している」が 9.5%で、「ときどき利用している」の 33.3%を加えた【利用している】は 42.8%で、「利用していない」を上回る。

圏域別にみると、いずれも「利用していない」が最も高く、これに、いずれも「ときどき利用している」が続いている。また、『小豆圏域』では、「今は利用していないが、これから利用したい」が 20.0%となっている。

居住年数別にみると、いずれも「利用していない」が最も高く、これに、いずれも「ときどき利用している」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店の利用について



(6) 地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用する理由

<問3で「1」または「2」と答えた方にお聞きします>

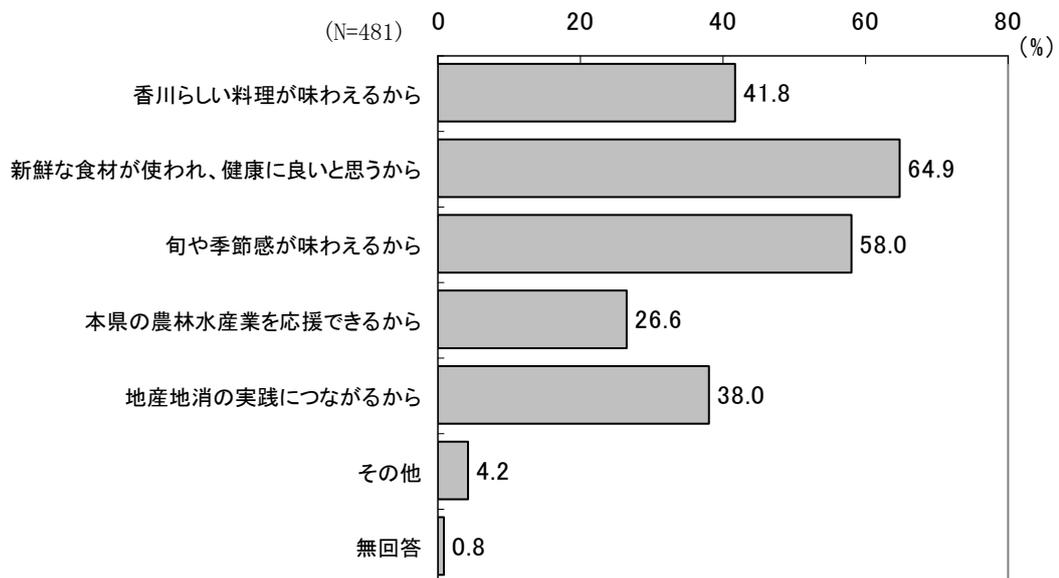
付問1 地元産（香川県産）の食材にこだわって料理を提供する飲食店を利用している理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=481]

1 香川らしい料理が味わえるから	41.8%
2 新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから	64.9%
3 旬や季節感が味わえるから	58.0%
4 本県の農林水産業を応援できるから	26.6%
5 地産地消の実践につながるから	38.0%
6 その他（具体的に：)	4.2%
(無回答)	0.8%

地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用する理由については、「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が64.9%と6割を超え最も高く、次いで「旬や季節感が味わえるから」が58.0%、「香川らしい料理が味わえるから」が41.8%などとなっている。

< 地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用する理由 >



性別にみると、男女とも「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が最も高く、その比率は『男性』が57.7%、『女性』が71.3%となっており、これに、男女とも「旬や季節感が味わえるから」が続いている。

年齢別にみると、『20～29 歳』では「旬や季節感が味わえるから」が66.7%と6割を超え最も高く、これに「香川らしい料理が味わえるから」、「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が続いている。その他の年齢層では、いずれも「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が6割を超え最も高く、これに「旬や季節感が味わえるから」が続いている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』では「旬や季節感が味わえるから」が半数を超え最も高く、これに「香川らしい料理が味わえるから」が続いている。また、その他の職業では、いずれも「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が最も高く、これに「旬や季節感が味わえるから」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が6割を超え最も高く、これに「旬や季節感が味わえるから」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「旬や季節感が味わえるから」が7割近くを占め最も高く、これに「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が続いている。『3年以上～10年未満』では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」、「旬や季節感が味わえるから」が同率で最も高く、これに「香川らしい料理が味わえるから」が続いている。『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから」が6割を超え最も高く、これに「旬や季節感が味わえるから」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用する理由

（単位：％）

区分		回答者数（人）	香川らしい料理が味わえるから	新鮮な食材が使われ、健康に良いと思うから	旬や季節感が味わえるから	本県の農林水産業を応援できるから	地産地消の実践につながるから	その他	無回答
全体		481	41.8	64.9	58.0	26.6	38.0	4.2	0.8
性別	男性	189	40.2	57.7	57.1	28.0	32.8	4.2	0.5
	女性	268	42.9	71.3	58.6	26.1	41.8	4.1	0.7
年齢別	20～29歳	21	47.6	47.6	66.7	23.8	28.6	9.5	0.0
	30～39歳	51	41.2	64.7	60.8	21.6	23.5	3.9	2.0
	40～49歳	41	29.3	68.3	53.7	22.0	22.0	2.4	2.4
	50～59歳	73	54.8	69.9	65.8	17.8	35.6	2.7	0.0
	60～69歳	125	38.4	68.0	60.0	27.2	39.2	4.8	0.0
	70歳以上	148	41.2	62.8	52.0	34.5	48.6	4.1	0.7
職業別	農林漁業	36	41.7	58.3	52.8	38.9	55.6	5.6	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	65	52.3	50.8	56.9	29.2	23.1	7.7	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	153	39.9	67.3	62.1	20.9	30.7	3.9	0.7
	主婦・主夫	131	42.0	74.8	58.8	32.1	45.8	3.1	0.8
	無職	69	34.8	59.4	53.6	23.2	44.9	2.9	1.4
圏域別	高松圏域	213	42.7	62.4	58.2	25.4	37.1	2.8	0.9
	東讃圏域	53	41.5	66.0	54.7	28.3	39.6	3.8	1.9
	小豆圏域	15	26.7	66.7	60.0	20.0	46.7	0.0	0.0
	中讃圏域	132	43.2	63.6	57.6	31.1	38.6	6.8	0.8
	西讃圏域	68	39.7	73.5	60.3	22.1	36.8	4.4	0.0
居住年数別	3年未満	25	48.0	52.0	68.0	20.0	24.0	8.0	4.0
	3年以上～10年未満	43	39.5	55.8	55.8	18.6	32.6	4.7	2.3
	10年以上～20年未満	73	34.2	65.8	64.4	15.1	28.8	11.0	0.0
	20年以上	315	43.5	67.6	56.5	31.4	42.2	2.2	0.3

(7) 地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用しない理由

<問3で「3」または「4」と答えた方にお聞きします>

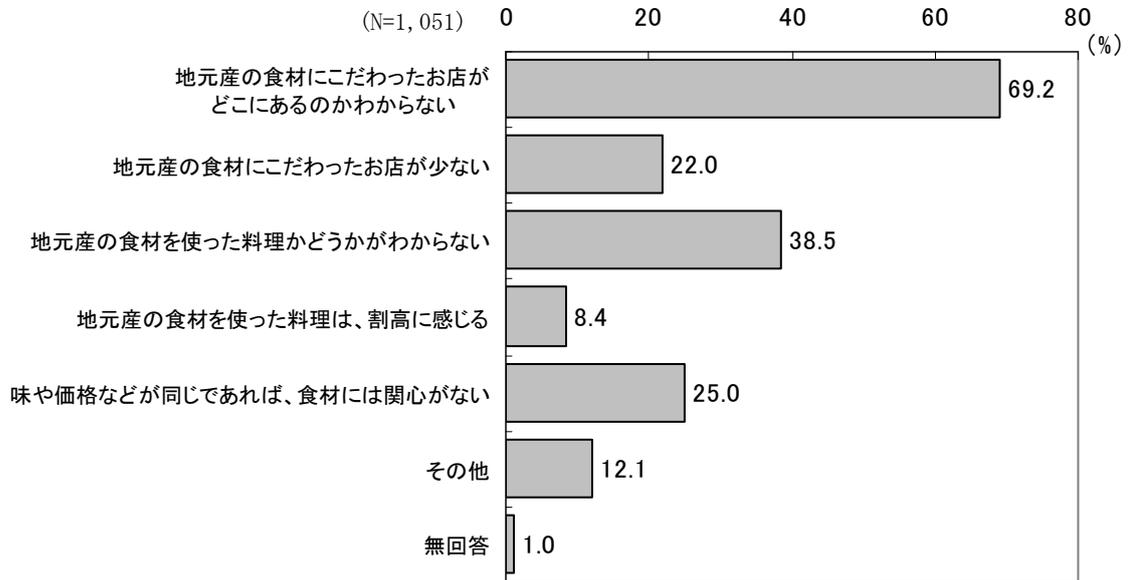
付問2 地元産(香川県産)の食材にこだわる飲食店を利用していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=1,051]

1	地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない	69.2%
2	地元産の食材にこだわったお店が少ない	22.0%
3	地元産の食材を使った料理かどうかかわからない	38.5%
4	地元産の食材を使った料理は、割高に感じる	8.4%
5	味や価格などが同じであれば、食材には関心がない	25.0%
6	その他（具体的に：)	12.1%
	(無回答)	1.0%

地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用しない理由については、「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が69.2%と7割近くを占め最も高く、次いで「地元産の食材を使った料理かどうかかわからない」が38.5%、「味や価格などが同じであれば、食材には関心がない」が25.0%などとなっている。

< 地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用しない理由 >



性別にみると、男女とも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が最も高く、その比率は『男性』が66.7%、『女性』が71.7%となっており、これに、男女ともに「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割を超え最も高く、特に『30～39歳』は73.8%、『50～59歳』は74.3%と7割を超える。これに、いずれも「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

職業別にみると、いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割を超え最も高く、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』は71.6%、『主婦・主夫』は71.4%と7割を超える。これに、いずれも「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割を超え最も高く、特に『東讃圏域』は70.9%、『西讃圏域』は77.5%と7割を超える。これに、『小豆圏域』では「地元産の食材にこだわったお店が少ない」が続き、その他の圏域では「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「地元産の食材にこだわったお店がどこにあるのかわからない」が6割を超え最も高く、特に『3年以上～10年未満』は75.2%、『10年以上～20年未満』は70.0%と7割を超える。これに、いずれも「地元産の食材を使った料理かどうかがわからない」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

地元産（香川県産）の食材を使用した料理を提供する飲食店を利用しない理由

(単位:%)

区分		回答者数（人）	が地元産の食材にこだわったお店	が地元産の食材にこだわったお店が少ない	地元産の食材を使った料理かどうかわからない	地元産の食材を使った料理は、割高に感じる	味や価格などが同じであれば、食材には関心がない	その他	無回答
全体		1,051	69.2	22.0	38.5	8.4	25.0	12.1	1.0
性別	男性	448	66.7	22.3	40.6	8.5	30.1	10.3	1.3
	女性	572	71.7	21.0	36.9	8.0	21.2	13.8	0.7
年齢別	20～29歳	73	67.1	8.2	34.2	15.1	38.4	4.1	0.0
	30～39歳	160	73.8	20.0	30.6	10.6	30.6	8.1	0.6
	40～49歳	164	67.1	22.0	30.5	7.9	27.4	14.0	1.2
	50～59歳	187	74.3	24.6	39.0	6.4	25.1	11.2	1.1
	60～69歳	244	68.4	23.4	46.7	6.6	17.6	16.8	0.4
	70歳以上	192	65.6	22.9	43.2	7.8	22.4	12.5	2.1
職業別	農林漁業	43	58.1	30.2	44.2	9.3	25.6	11.6	2.3
	商工業、サービス業、自由業など	134	64.2	23.1	38.8	8.2	29.9	13.4	1.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	440	71.6	20.0	35.2	8.2	28.6	11.1	0.9
	主婦・主夫	220	71.4	20.9	38.2	6.4	15.9	13.2	0.9
	無職	182	68.7	23.6	45.6	10.4	23.6	12.6	0.5
圏域別	高松圏域	492	68.1	21.1	37.4	9.3	25.4	13.8	0.6
	東讃圏域	103	70.9	25.2	36.9	6.8	14.6	11.7	2.9
	小豆圏域	35	62.9	37.1	34.3	14.3	28.6	8.6	2.9
	中讃圏域	283	67.1	21.6	40.3	7.1	29.3	10.6	1.4
	西讃圏域	138	77.5	19.6	41.3	7.2	21.7	10.1	0.0
居住年数別	3年未満	74	68.9	10.8	27.0	13.5	21.6	13.5	0.0
	3年以上～10年未満	153	75.2	19.0	40.5	7.8	22.9	11.8	0.7
	10年以上～20年未満	160	70.0	21.9	37.5	8.1	31.3	5.6	0.6
	20年以上	631	68.0	23.6	39.8	7.8	24.1	13.9	1.3

(8) 今後も地産地消を推進していくべきかどうか

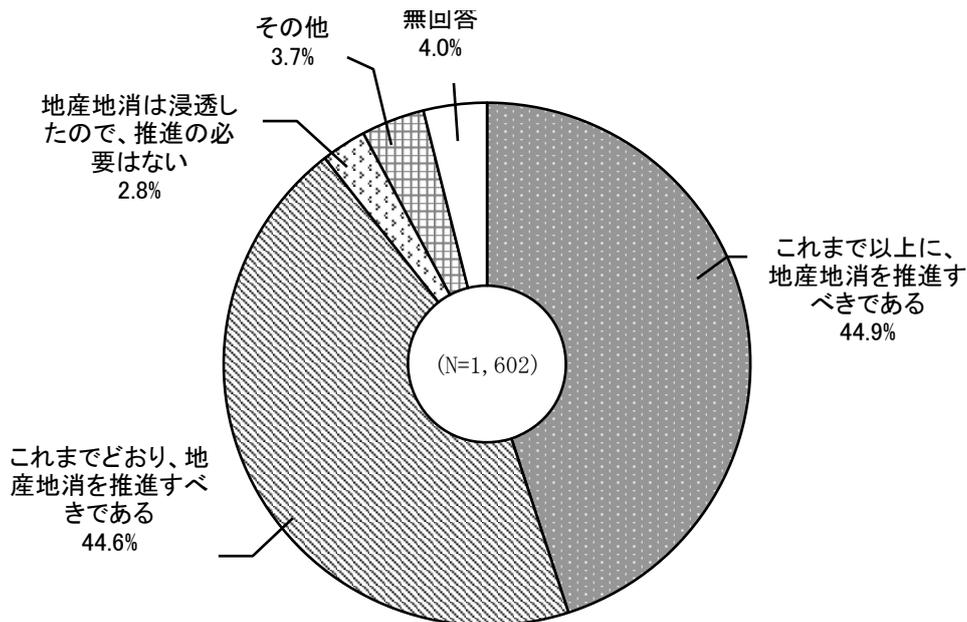
問4 県では、これまで地産地消の推進に取り組んできましたが、引き続き、地産地消を推進していくべきと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,602]

1	これまで以上に、地産地消を推進すべきである	44.9%
2	これまでどおり、地産地消を推進すべきである	44.6%
3	地産地消は浸透したので、推進の必要はない	2.8%
4	その他 ()	3.7%
	(無回答)	4.0%

今後も地産地消を推進していくべきかどうかについては、「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が44.9%と最も高く、次いで「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が44.6%となっており、これらを合わせた【推進すべきである】が89.5%と9割近くを占める。一方、「地産地消は浸透したので、推進の必要はない」は2.8%となっている。

〈 今後も地産地消を推進していくべきかどうか 〉



性別にみると、『男性』では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が45.1%で最も高く、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。一方、『女性』では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が46.3%で最も高く、これに「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が続いている。

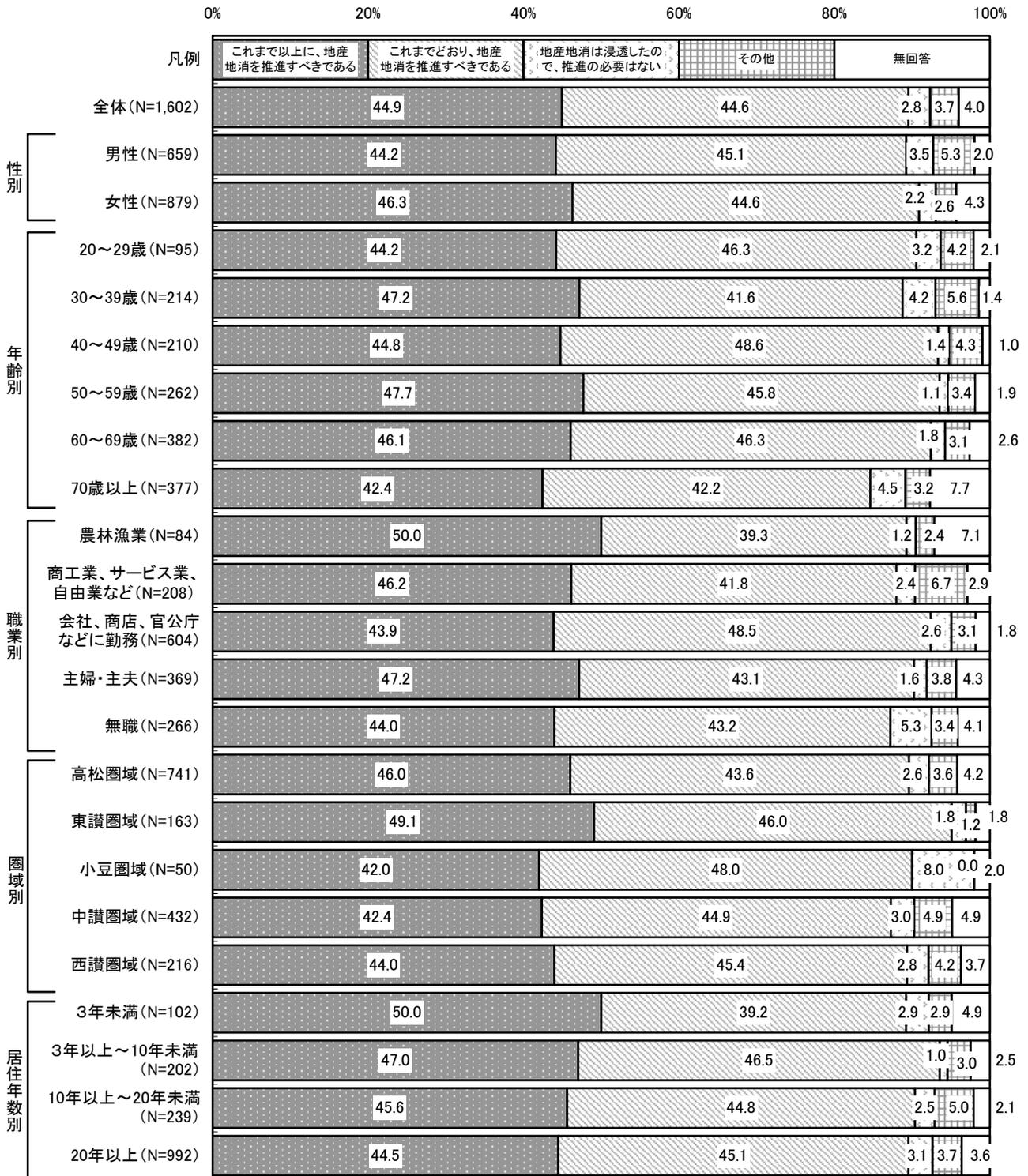
年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』、『60～69歳』では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。一方、『30～39歳』、『50～59歳』、『70歳以上』では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が続いている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。その他の職業では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が続いている。一方、『小豆圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が続いている。その他の居住年数では「これまで以上に、地産地消を推進すべきである」が最も高く、これに「これまでどおり、地産地消を推進すべきである」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
今後も地産地消を推進していくべきかどうか



(9) 地産地消を推進するために、どのような取組みが必要か

＜問4で「1」または「2」と答えた方にお聞きします＞

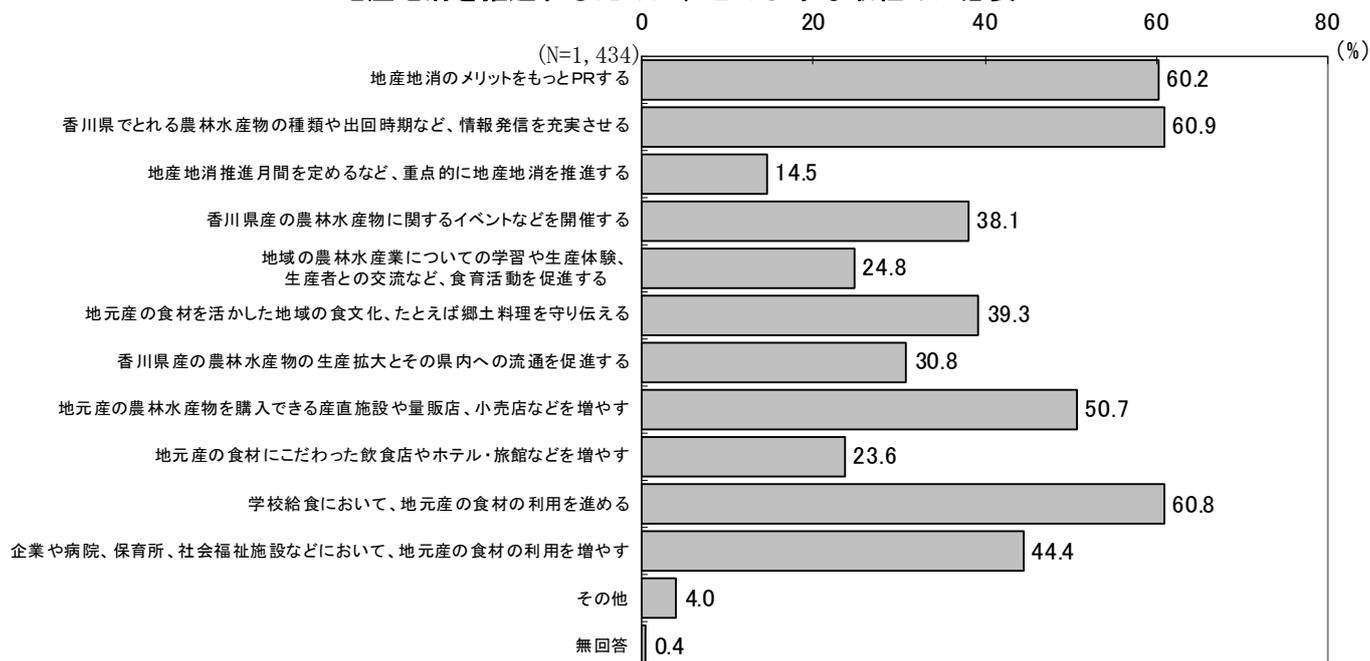
付問1 地産地消を推進するためには、どのような取組みが必要と思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

〔回答者数=1,434〕

1 地産地消のメリットをもっとPRする	60.2%
2 香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる	60.9%
3 地産地消推進月間を定めるなど、重点的に地産地消を推進する	14.5%
4 香川県産の農林水産物に関するイベントなどを開催する	38.1%
5 地域の農林水産業についての学習や生産体験、生産者との交流など、食育活動を促進する	24.8%
6 地元産の食材を活かした地域の食文化、たとえば郷土料理を守り伝える	39.3%
7 香川県産の農林水産物の生産拡大とその県内への流通を促進する	30.8%
8 地元産の農林水産物を購入できる産直施設や量販店、小売店などを増やす	50.7%
9 地元産の食材にこだわった飲食店やホテル・旅館などを増やす	23.6%
10 学校給食において、地元産の食材の利用を進める	60.8%
11 企業や病院、保育所、社会福祉施設などにおいて、地元産の食材の利用を増やす	44.4%
12 その他（具体的に：)	4.0%
(無回答)	0.4%

地産地消を推進するために、どのような取組みが必要かについては、「香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる」が60.9%と最も高く、次いで「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が60.8%、「地産地消のメリットをもっとPRする」が60.2%などとなっている。

＜ 地産地消を推進するために、どのような取組みが必要か ＞



性別にみると、『男性』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が64.3%、『女性』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が65.3%とそれぞれ6割を超え最も高くなっている。これに、男女とも「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が最も高く、これに、『20～29歳』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」、『30～39歳』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が続いている。『40～49歳』、『70歳以上』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が6割を超え最も高くなっており、これに、『40～49歳』では「地産地消のメリットをもっとPRする」、『70歳以上』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が続いている。『50～59歳』、『60～69歳』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が6割を超え最も高く、これに「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が最も高くなっており、これに「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が続いている。その他の職業では「地産地消のメリットをもっとPRする」が最も高く、これに、『商工業、サービス業、自由業など』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が6割を超え最も高く、これに『高松圏域』では「地産地消のメリットをもっとPRする」、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が続いている。『小豆圏域』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が6割を超え最も高く、これに「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が続いている。『西讃圏域』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が6割を超え最も高く、これに「地産地消のメリットをもっとPRする」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が6割を超え最も高く、これに「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が続いている。『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「地産地消のメリットをもっとPRする」が6割を超え最も高く、これに『3年以上～10年未満』では「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」、『10年以上～20年未満』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が続いている。『20年以上』では「香川県でとれる農林水産物の種類や出回時期など、情報発信を充実させる」が6割を超え最も高く、これに「学校給食において、地元産の食材の利用を進める」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地産地消を推進するために、どのような取組みが必要か

(単位:%)

区分		回答者数(人)	地産地消のメリットをもっとPRする	香川県でとれる農林水産物の種類や出荷時期など、情報発信を充実させる	香川県の農林水産物の種類や、重点的に地産地消を推進する	香川県の農林水産物に関するイベントなどを開催する	生産体験、生産者との交流など、食育活動を促進する	地域の農林水産業についての学習や	地元産の食材を活かした地域の食文化、たとえば郷土料理を守り伝える	香川県の農林水産物の生産拡大と	香川県内への流通を促進する	直売店や量販店、小売店などを増やす	地元産の食材にこだわった飲食店やホテル・旅館などを増やす	地元産の食材において、地元産の食材の	学校給食において、地元産の食材の	を増やす	企業や病院、保育所、社会福祉施設などにおいて、地元産の食材の利用を増やす	その他	無回答
全体		1,434	60.2	60.9	14.5	38.1	24.8	39.3	30.8	50.7	23.6	60.8	44.4	4.0	0.4				
性別	男性	588	64.3	61.6	15.8	38.3	25.0	35.2	32.5	49.7	20.6	54.9	38.1	6.1	0.3				
	女性	799	57.9	61.0	13.6	38.0	25.3	42.4	30.4	51.7	26.0	65.3	48.8	2.5	0.5				
年齢別	20～29歳	86	59.3	58.1	9.3	33.7	23.3	33.7	31.4	33.7	29.1	52.3	45.3	5.8	1.2				
	30～39歳	190	65.3	57.9	7.9	38.4	27.9	36.3	21.1	41.1	34.2	58.4	40.0	2.6	0.5				
	40～49歳	196	61.2	54.1	10.7	30.6	24.5	34.7	26.0	48.0	28.6	64.3	36.7	3.6	0.0				
	50～59歳	245	59.6	60.4	15.1	38.0	20.4	38.4	36.3	53.5	24.1	60.0	38.8	4.5	0.4				
	60～69歳	353	59.8	66.6	18.4	39.1	25.2	41.9	34.0	54.1	17.0	60.9	47.3	4.0	0.0				
	70歳以上	319	58.9	63.0	17.6	42.6	28.2	44.2	33.5	57.4	20.1	63.3	52.0	4.4	0.9				
職業別	農林漁業	75	56.0	65.3	24.0	41.3	40.0	41.3	48.0	52.0	18.7	72.0	53.3	2.7	0.0				
	商工業、サービス業、自由業など	183	63.4	55.7	15.3	48.6	26.2	39.9	29.0	49.2	21.9	57.9	42.6	3.3	0.0				
	会社、商店、官公庁などに勤務	558	59.7	60.9	12.4	33.5	22.8	35.5	28.7	47.8	28.3	59.3	39.6	3.4	0.4				
	主婦・主夫	333	57.7	61.6	13.8	36.9	25.2	45.6	31.2	53.8	21.6	63.7	47.1	3.0	0.6				
	無職	232	65.5	64.2	17.2	41.4	25.9	40.1	34.1	54.7	19.4	59.5	50.0	7.8	0.9				
圏域別	高松圏域	664	61.3	63.0	15.5	37.3	23.9	39.8	30.9	52.1	23.5	60.4	44.0	4.2	0.6				
	東讃圏域	155	57.4	61.3	12.9	38.7	28.4	47.7	30.3	50.3	19.4	60.0	46.5	5.2	0.0				
	小豆圏域	45	66.7	57.8	8.9	46.7	22.2	42.2	26.7	53.3	37.8	60.0	37.8	6.7	0.0				
	中讃圏域	377	58.9	60.2	13.8	38.5	24.4	34.7	28.1	50.9	25.5	59.9	43.8	4.0	0.5				
	西讃圏域	193	59.6	56.0	15.0	37.3	25.9	38.9	37.3	45.1	20.7	64.8	47.2	1.6	0.0				
居住年数別	3年未満	91	53.8	59.3	12.1	33.0	25.3	31.9	29.7	47.3	37.4	64.8	44.0	9.9	0.0				
	3年以上～10年未満	189	61.4	56.1	11.1	39.7	22.2	39.2	29.1	45.0	25.9	57.7	42.9	4.8	0.0				
	10年以上～20年未満	216	65.7	63.4	10.6	41.2	24.1	37.5	24.5	49.5	25.9	61.6	39.4	3.2	0.0				
	20年以上	888	59.8	62.2	16.6	37.5	26.1	40.9	33.2	52.9	20.9	61.1	45.7	3.5	0.7				

2 動物の愛護と管理について

(1) ペットを飼っているかどうか

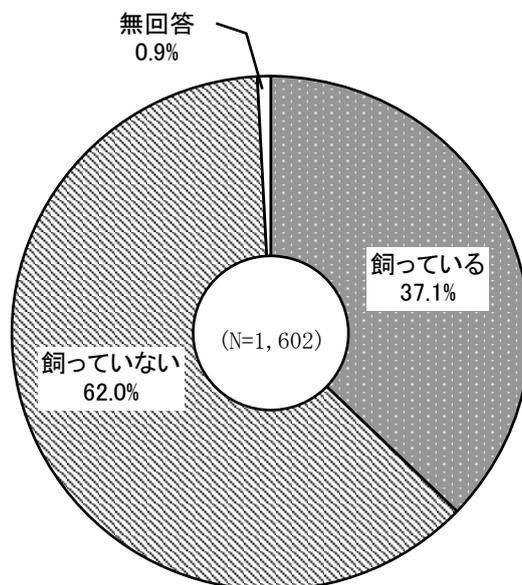
問5 あなたは、ペットを飼っていますか。次のどちらか1つを選んで下さい。

[回答者数=1,602]

1 飼っている	37.1%
2 飼っていない	62.0%
(無回答)	0.9%

ペットを飼っているかどうかについては、「飼っていない」が 62.0%と6割を占め、「飼っている」は 37.1%となっている

< ペットを飼っているかどうか >



性別にみると、「飼っていない」は『男性』で62.4%、『女性』で62.2%となっている。

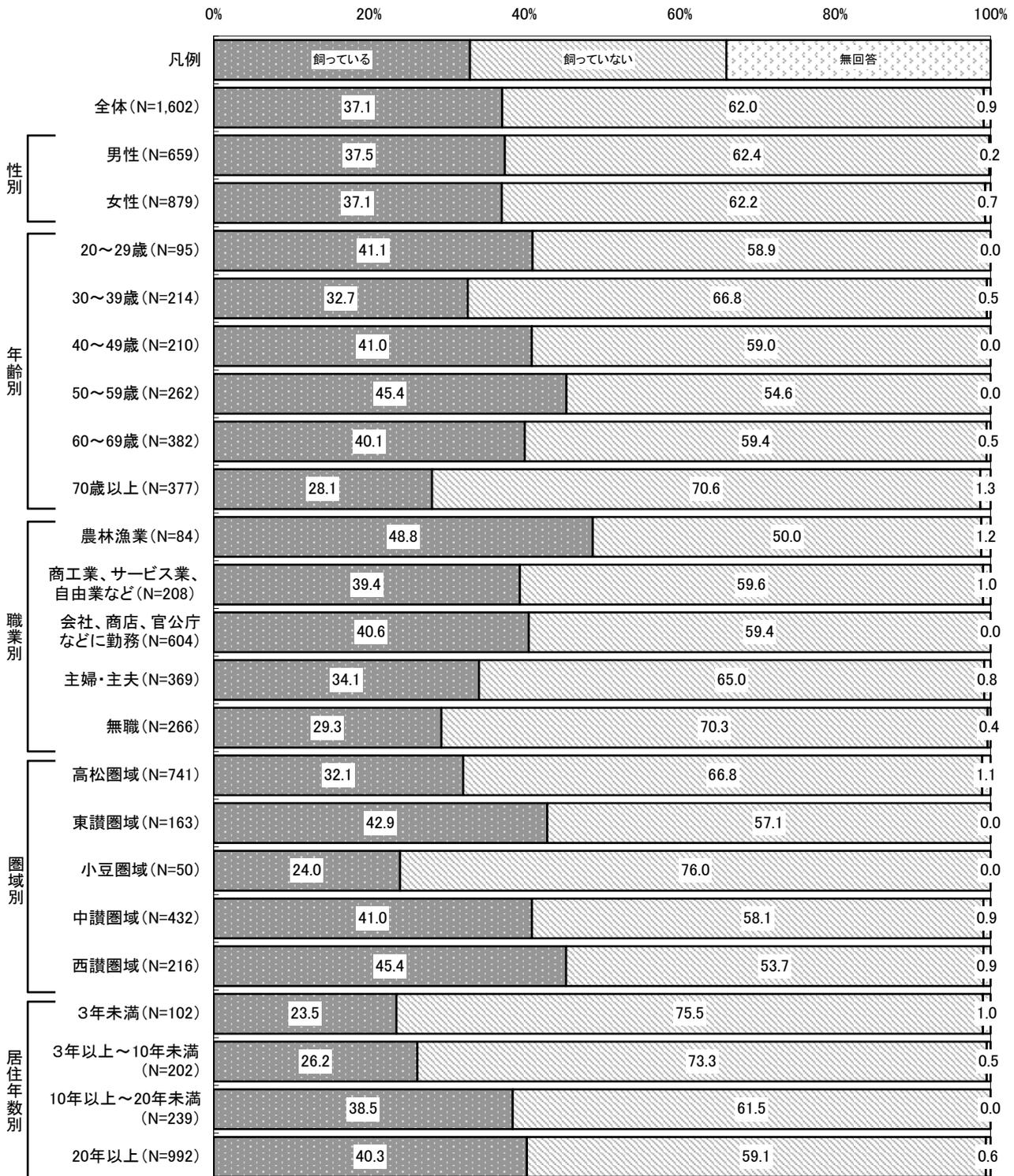
年齢別にみると、いずれも「飼っていない」が「飼っている」を上回っており、特に『70歳以上』では「飼っていない」が70.6%となっている。

職業別にみると、いずれも「飼っていない」が「飼っている」を上回っており、特に『無職』では「飼っていない」が70.3%となっている。一方、『農林漁業』では、「飼っている」と「飼っていない」がほぼ半数ずつとなっている。

圏域別にみると、いずれも「飼っていない」が「飼っている」を上回っており、特に『小豆圏域』では「飼っていない」が76.0%となっている。

居住年数別にみると、いずれも「飼っていない」が「飼っている」を上回っており、特に『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「飼っていない」が7割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
ペットを飼っているかどうか



(2) どんなペットを飼っているか

<問5で「1」と答えた方にお聞きします>

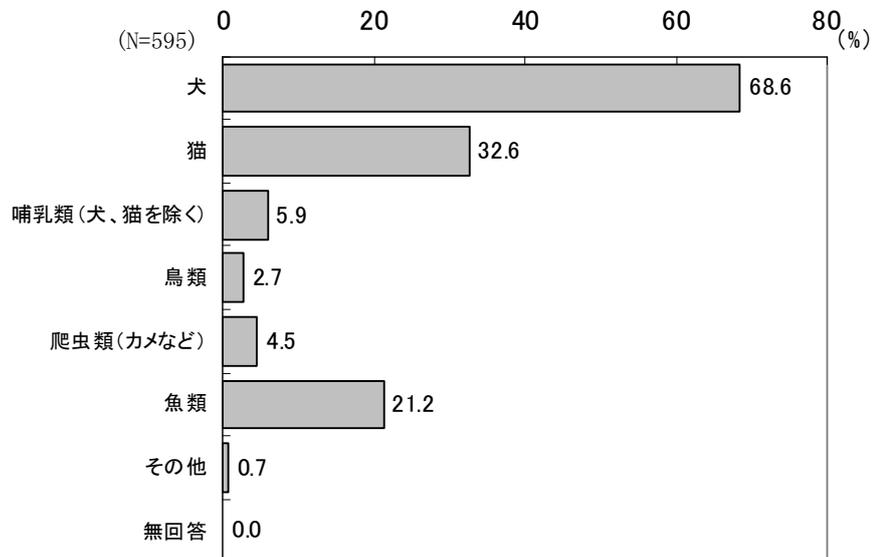
付問1 あなたは、どんなペットを飼っていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=595]

1 犬	68.6%
2 猫	32.6%
3 哺乳類（犬、猫を除く）	5.9%
4 鳥類	2.7%
5 爬虫類（カメなど）	4.5%
6 魚類	21.2%
7 その他（具体的に： （無回答）	0.7% 0.0%

どんなペットを飼っているかについては、「犬」が68.6%と7割近くを占め最も高く、次いで「猫」が32.6%、「魚類」が21.2%などとなっている。

< どんなペットを飼っているか >



性別にみると、男女とも「犬」が最も高く、『男性』で 70.9%、『女性』で 65.6%となっており、これに、男女とも「猫」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「犬」が最も高く、特に『50～59 歳』は 75.6%となっている。これに、いずれも「猫」が続いている。なお、『40～49 歳』では「猫」と「魚類」が同じ比率となっている。

職業別にみると、いずれも「犬」が最も高く、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』は 71.0%、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』がともに 70.7%と 7 割を超える。これに、いずれも「猫」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「猫」、「魚類」がともに 41.7%で最も高く、これに「犬」が続いている。その他の圏域では「犬」が最も高く、これに「猫」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「犬」が最も高く、特に『3 年以上～10 年未満』、『10 年以上～20 年未満』ともに 71.7%と 7 割を超える。これに、『10 年以上～20 年未満』は「魚類」が、その他の居住年数では「猫」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
 どんなペットを飼っているか

(単位:%)

区分		回答者数(人)	犬	猫	哺乳類 (犬、猫を除く)	鳥類	爬虫類 (カメなど)	魚類	その他	無回答
全体		595	68.6	32.6	5.9	2.7	4.5	21.2	0.7	0.0
性別	男性	247	70.9	29.6	6.9	2.8	4.9	22.7	0.4	0.0
	女性	326	65.6	36.2	5.2	2.8	4.3	20.2	0.9	0.0
年齢別	20～29歳	39	59.0	30.8	7.7	2.6	5.1	23.1	0.0	0.0
	30～39歳	70	60.0	31.4	8.6	0.0	5.7	28.6	0.0	0.0
	40～49歳	86	70.9	25.6	15.1	3.5	7.0	25.6	0.0	0.0
	50～59歳	119	75.6	37.8	5.0	3.4	3.4	21.8	0.0	0.0
	60～69歳	153	68.0	32.0	1.3	2.6	5.2	20.3	1.3	0.0
	70歳以上	106	65.1	38.7	3.8	3.8	1.9	13.2	1.9	0.0
職業別	農林漁業	41	70.7	43.9	0.0	2.4	4.9	7.3	0.0	0.0
	商工業、サービス業、 自由業など	82	70.7	31.7	6.1	1.2	0.0	17.1	1.2	0.0
	会社、商店、官公庁 などに勤務	245	71.0	29.4	8.2	2.9	7.8	27.8	0.0	0.0
	主婦・主夫	126	59.5	34.9	4.0	3.2	2.4	19.0	1.6	0.0
	無職	78	66.7	39.7	5.1	3.8	2.6	16.7	1.3	0.0
圏域別	高松圏域	238	68.1	29.0	5.5	3.8	5.0	20.2	1.3	0.0
	東讃圏域	70	70.0	28.6	7.1	4.3	2.9	17.1	0.0	0.0
	小豆圏域	12	33.3	41.7	8.3	0.0	8.3	41.7	0.0	0.0
	中讃圏域	177	70.6	35.6	5.6	1.7	4.0	23.7	0.0	0.0
	西讃圏域	98	69.4	37.8	6.1	1.0	5.1	18.4	1.0	0.0
居住年数別	3年未満	24	50.0	33.3	8.3	4.2	0.0	33.3	4.2	0.0
	3年以上～10年未満	53	71.7	22.6	11.3	0.0	0.0	18.9	0.0	0.0
	10年以上～20年未満	92	71.7	22.8	7.6	5.4	8.7	27.2	0.0	0.0
	20年以上	400	67.5	37.5	4.5	2.5	4.5	19.8	0.8	0.0

(3) ペットの入手方法について

<問5で「1」と答えた方にお聞きします>

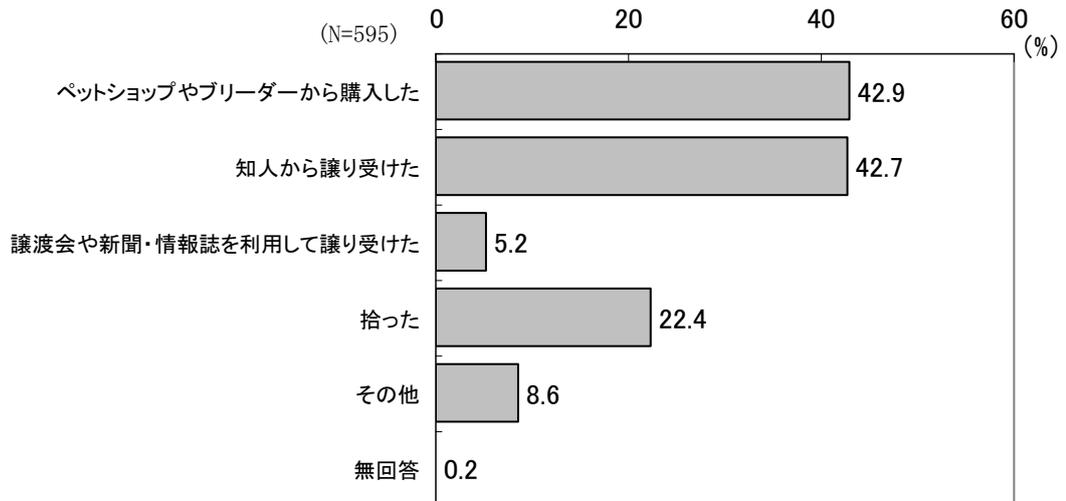
付問2 ペットの入手方法について、次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=595]

1	ペットショップやブリーダーから購入した	42.9%
2	知人から譲り受けた	42.7%
3	譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	5.2%
4	拾った	22.4%
5	その他（具体的に：)	8.6%
	(無回答)	0.2%

ペットの入手方法については、「ペットショップやブリーダーから購入した」が42.9%と4割を超え最も高く、次いで「知人から譲り受けた」が42.7%、「拾った」が22.4%となっている。また、「譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた」は5.2%となっている。

< ペットの入手方法について >



性別にみると、『男性』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が47.8%と最も高く、これに「知人から譲り受けた」が続いている。一方、『女性』では「知人から譲り受けた」が44.5%と最も高く、これに「ペットショップやブリーダーから購入した」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「知人から譲り受けた」が4割を超え最も高く、『40～49歳』、『50～59歳』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が半数を超え最も高くなっている。また、『30～39歳』では「ペットショップやブリーダーから購入した」、「知人から譲り受けた」がともに42.9%で最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が半数を超え最も高く、これに「知人から譲り受けた」が続いている。その他の職業では、いずれも「知人から譲り受けた」が4割を超え最も高く、特に『農林漁業』は51.2%と半数を超えており、これに、いずれも「ペットショップやブリーダーから購入した」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「ペットショップやブリーダーから購入した」が4割を超え最も高く、これに「知人から譲り受けた」が続いている。『中讃圏域』、『西讃圏域』では「知人から譲り受けた」が4割を超え最も高く、これに、いずれも「ペットショップやブリーダーから購入した」が続いている。『東讃圏域』では「ペットショップやブリーダーから購入した」、「知人から譲り受けた」がともに41.4%で最も高くなっており、また、『小豆圏域』では「ペットショップやブリーダーから購入した」、「知人から譲り受けた」、「拾った」がいずれも33.3%で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「知人から譲り受けた」が最も高く、これに「ペットショップやブリーダーから購入した」が続いている。その他の居住年数では、いずれも「ペットショップやブリーダーから購入した」が最も高く、これに、いずれも「知人から譲り受けた」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
ペットの入手方法について

(単位:%)

区分		回答者数(人)	ペットショップやブリーダーから購入した	知人から譲り受けた	譲渡会や新聞・情報誌を利用して譲り受けた	拾った	その他	無回答
全体		595	42.9	42.7	5.2	22.4	8.6	0.2
性別	男性	247	47.8	39.7	3.2	24.3	4.9	0.0
	女性	326	39.0	44.5	6.4	21.8	12.0	0.3
年齢別	20～29歳	39	46.2	51.3	7.7	15.4	12.8	0.0
	30～39歳	70	42.9	42.9	2.9	22.9	10.0	0.0
	40～49歳	86	59.3	38.4	7.0	17.4	9.3	1.2
	50～59歳	119	51.3	32.8	7.6	26.1	5.9	0.0
	60～69歳	153	36.6	45.8	2.6	25.5	6.5	0.0
	70歳以上	106	27.4	48.1	4.7	22.6	13.2	0.0
職業別	農林漁業	41	34.1	51.2	0.0	24.4	12.2	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	82	42.7	45.1	2.4	24.4	7.3	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	245	51.8	38.4	6.1	21.2	7.3	0.4
	主婦・主夫	126	31.0	43.7	4.8	21.4	11.1	0.0
	無職	78	38.5	44.9	7.7	28.2	10.3	0.0
圏域別	高松圏域	238	46.6	39.1	4.6	20.2	8.0	0.0
	東讃圏域	70	41.4	41.4	5.7	30.0	10.0	0.0
	小豆圏域	12	33.3	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0
	中讃圏域	177	43.5	44.6	6.8	20.9	6.8	0.0
	西讃圏域	98	34.7	50.0	4.1	23.5	11.2	1.0
居住年数別	3年未満	24	37.5	33.3	4.2	16.7	29.2	0.0
	3年以上～10年未満	53	66.0	32.1	3.8	9.4	1.9	0.0
	10年以上～20年未満	92	51.1	38.0	2.2	21.7	6.5	0.0
	20年以上	400	38.8	44.8	5.8	25.5	9.0	0.3

(4) ペットの災害時の対策について

<問5で「1」と答えた方にお聞きします>

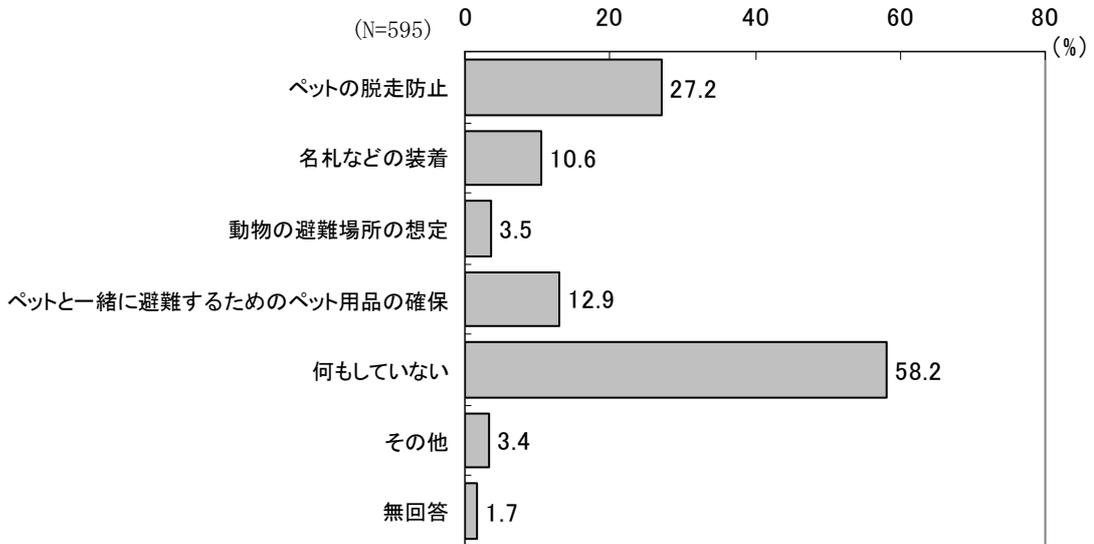
付問3 あなたは、日ごろからペットの災害時の対策を講じていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=595]

1 ペットの脱走防止	27.2%
2 名札などの装着	10.6%
3 動物の避難場所の想定	3.5%
4 ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保	12.9%
5 何もしていない	58.2%
6 その他（具体的に： （無回答）	3.4% 1.7%

ペットの災害時の対策については、「何もしていない」が58.2%と6割近くを占め最も高く、次いで「ペットの脱走防止」が27.2%、「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」が12.9%、「名札などの装着」が10.6%などとなっている。

< ペットの災害時の対策について >



性別にみると、男女とも「何もしていない」が半数を超え最も高く、6割近くを占めている。これに、男女とも「ペットの脱走防止」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「何もしていない」が最も高く、6割前後を占めている。これに、いずれも「ペットの脱走防止」が続いている。一方「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」については、『20～29歳』で他の年齢層に比較して2.6%と低い。

職業別にみると、いずれも「何もしていない」が最も高く、6割前後を占めている。これに、いずれも「ペットの脱走防止」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「何もしていない」が半数を超え最も高く、特に『小豆圏域』では8割を超えている。これに、『小豆圏域』では「ペットと一緒に避難するためのペット用品の確保」が続き、その他の圏域では、いずれも「ペットの脱走防止」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「何もしていない」が半数を超え最も高く、これに、いずれも「ペットの脱走防止」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
 ペットの災害時の対策について

(単位:%)

区分		回答者数(人)	ペットの脱走防止	名札などの装着	動物の避難場所の想定	ペットと一緒の確保	何もしていない	その他	無回答
全体		595	27.2	10.6	3.5	12.9	58.2	3.4	1.7
性別	男性	247	30.0	10.1	1.2	9.3	57.9	4.0	1.6
	女性	326	24.5	9.8	4.6	15.3	59.8	3.1	1.5
年齢別	20～29歳	39	25.6	10.3	2.6	2.6	64.1	2.6	2.6
	30～39歳	70	20.0	10.0	1.4	17.1	58.6	2.9	1.4
	40～49歳	86	34.9	10.5	3.5	12.8	59.3	1.2	0.0
	50～59歳	119	25.2	8.4	4.2	16.0	60.5	1.7	0.8
	60～69歳	153	28.1	11.8	3.9	14.4	53.6	6.5	2.0
	70歳以上	106	25.5	8.5	1.9	7.5	63.2	3.8	2.8
職業別	農林漁業	41	31.7	14.6	0.0	7.3	56.1	7.3	2.4
	商工業、サービス業、自由業など	82	30.5	14.6	3.7	14.6	54.9	3.7	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	245	27.8	8.6	2.4	13.9	61.2	0.8	0.8
	主婦・主夫	126	22.2	7.9	5.6	14.3	59.5	5.6	1.6
	無職	78	25.6	10.3	2.6	7.7	57.7	6.4	3.8
圏域別	高松圏域	238	28.2	9.7	3.8	10.9	58.8	2.1	1.7
	東讃圏域	70	21.4	11.4	0.0	10.0	60.0	7.1	4.3
	小豆圏域	12	0.0	0.0	0.0	8.3	83.3	8.3	0.0
	中讃圏域	177	31.1	12.4	4.0	16.4	54.2	3.4	1.7
	西讃圏域	98	25.5	10.2	5.1	14.3	59.2	3.1	0.0
居住年数別	3年未満	24	25.0	16.7	4.2	8.3	54.2	8.3	0.0
	3年以上～10年未満	53	30.2	15.1	1.9	18.9	50.9	1.9	1.9
	10年以上～20年未満	92	29.3	5.4	2.2	14.1	62.0	3.3	0.0
	20年以上	400	26.3	10.0	3.5	11.8	59.5	3.5	2.0

(5) 飼っている犬または猫が迷子になったときの対策について

<犬または猫を飼っている方にお聞きします>

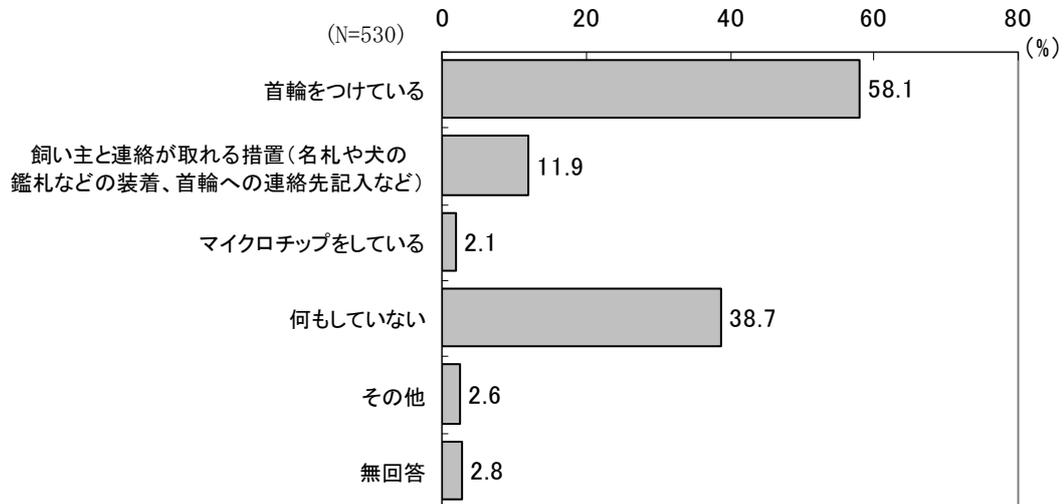
付問4 飼っている犬または猫が迷子になったときの対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=530]

1 首輪をつけている	58.1%
2 飼い主と連絡が取れる措置 (名札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など)	11.9%
3 マイクロチップをしている	2.1%
4 何もしていない	38.7%
5 その他(具体的に：) (無回答)	2.6% 2.8%

飼っている犬または猫が迷子になったときの対策については、「首輪をつけている」が58.1%と6割近くを占め最も高く、次いで「何もしていない」が38.7%、「飼い主と連絡が取れる措置(名札や犬の鑑札などの装着、首輪への連絡先記入など)」が11.9%となっている。また、「マイクロチップをしている」は2.1%となっている。

< 飼っている犬または猫が迷子になったときの対策について >



性別にみると、男女とも「首輪をつけている」が最も高く、『男性』で 57.7%、『女性』で 57.9%となっており、これに、男女とも「何もしていない」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「首輪をつけている」が半数を超え最も高く、特に『70歳以上』は 62.9%と 6割を超えている。これに、いずれも「何もしていない」が続いている。一方「飼い主と連絡が取れる措置」については、『20～29歳』で 3.1%、『30～39歳』で 5.3%、『70歳以上』で 7.2%とこのほかの年齢層に比べ低い。

職業別にみると、いずれも「首輪をつけている」が半数を超え最も高く、特に『農林漁業』は 67.5%、『会社、商店、官公庁などに勤務』は 60.3%と 6割を超えている。これに、いずれも「何もしていない」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「首輪をつけている」が最も高く、6割前後を占めている。これに、いずれも「何もしていない」が続いている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「何もしていない」が 53.3%と半数を超え最も高く、これに「首輪をつけている」が続いている。一方、その他の居住年数では、いずれも「首輪をつけている」が半数を超え最も高く、特に『3年未満』は 76.5%となっており、これに、いずれも「何もしていない」が続いている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
飼っている犬または猫が迷子になったときの対策について**

(単位:%)

区分		回答者数(人)	首輪をつけている	飼い主と連絡が取れる措置(名札などの装着、首輪への連絡先記入など)	マイクロチップをしている	何もしていない	その他	無回答
全体		530	58.1	11.9	2.1	38.7	2.6	2.8
性別	男性	220	57.7	12.7	3.2	37.7	2.3	2.7
	女性	290	57.9	11.0	1.0	40.3	2.8	2.8
年齢別	20～29歳	32	56.3	3.1	3.1	43.8	3.1	3.1
	30～39歳	57	52.6	5.3	3.5	42.1	1.8	1.8
	40～49歳	70	54.3	15.7	1.4	45.7	0.0	0.0
	50～59歳	111	59.5	18.0	2.7	34.2	0.9	3.6
	60～69歳	143	57.3	12.6	0.7	39.2	4.2	3.5
	70歳以上	97	62.9	7.2	2.1	37.1	4.1	3.1
職業別	農林漁業	40	67.5	12.5	2.5	32.5	2.5	2.5
	商工業、サービス業、自由業など	74	50.0	17.6	2.7	43.2	2.7	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	214	60.3	12.6	2.8	36.9	1.9	2.8
	主婦・主夫	110	55.5	7.3	0.9	41.8	1.8	2.7
	無職	71	56.3	9.9	0.0	42.3	5.6	5.6
圏域別	高松圏域	211	55.5	13.7	3.3	38.4	2.8	1.9
	東讃圏域	64	64.1	9.4	1.6	32.8	1.6	6.3
	小豆圏域	8	62.5	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	中讃圏域	158	58.2	13.9	1.3	41.1	3.2	1.9
	西讃圏域	89	59.6	6.7	1.1	38.2	2.2	4.5
居住年数別	3年未満	17	76.5	17.6	5.9	23.5	0.0	0.0
	3年以上～10年未満	45	42.2	11.1	8.9	53.3	0.0	4.4
	10年以上～20年未満	77	57.1	9.1	2.6	39.0	0.0	1.3
	20年以上	368	58.4	12.2	0.8	38.9	3.5	3.0

(6) 迷子対策をしていない理由

<付問4で「4 何もしていない」と答えた方にお聞きします>

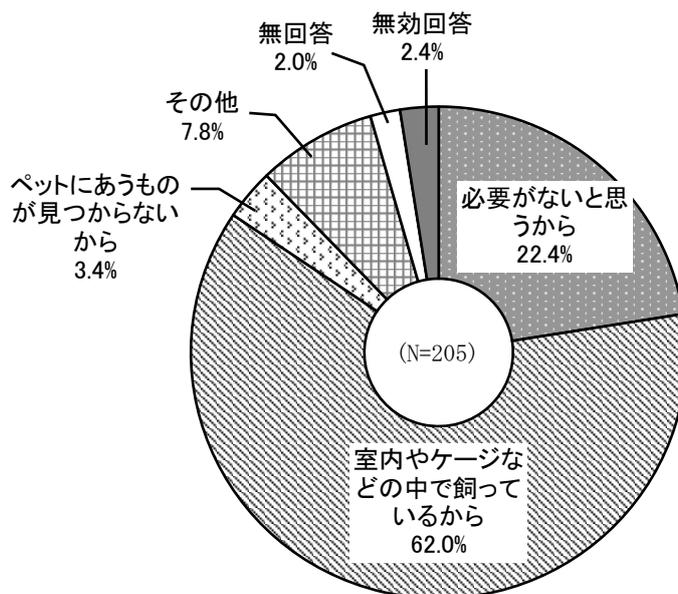
付問5 迷子対策をしていない理由は何ですか。主な理由を1つだけ選んでください。

[回答者数=205]

1 必要がないと思うから	22.4%
2 室内やケージなどの中で飼っているから	62.0%
3 ペットにあうものが見つからないから	3.4%
4 その他（具体的に：)	7.8%
(無回答)	2.0%
無効回答（2つ以上選択された場合、無効回答とさせていただきました）	2.4%

迷子対策をしていない理由については、「室内やケージなどの中で飼っているから」が62.0%と6割を超え最も高く、次いで「必要がないと思うから」が22.4%などとなっている。

< 迷子対策をしていない理由 >



性別にみると、男女とも「室内やケージなどの中で飼っているから」が最も高く、『男性』で61.4%、『女性』で62.4%となっており、これに、男女とも「必要がないと思うから」が続いている。

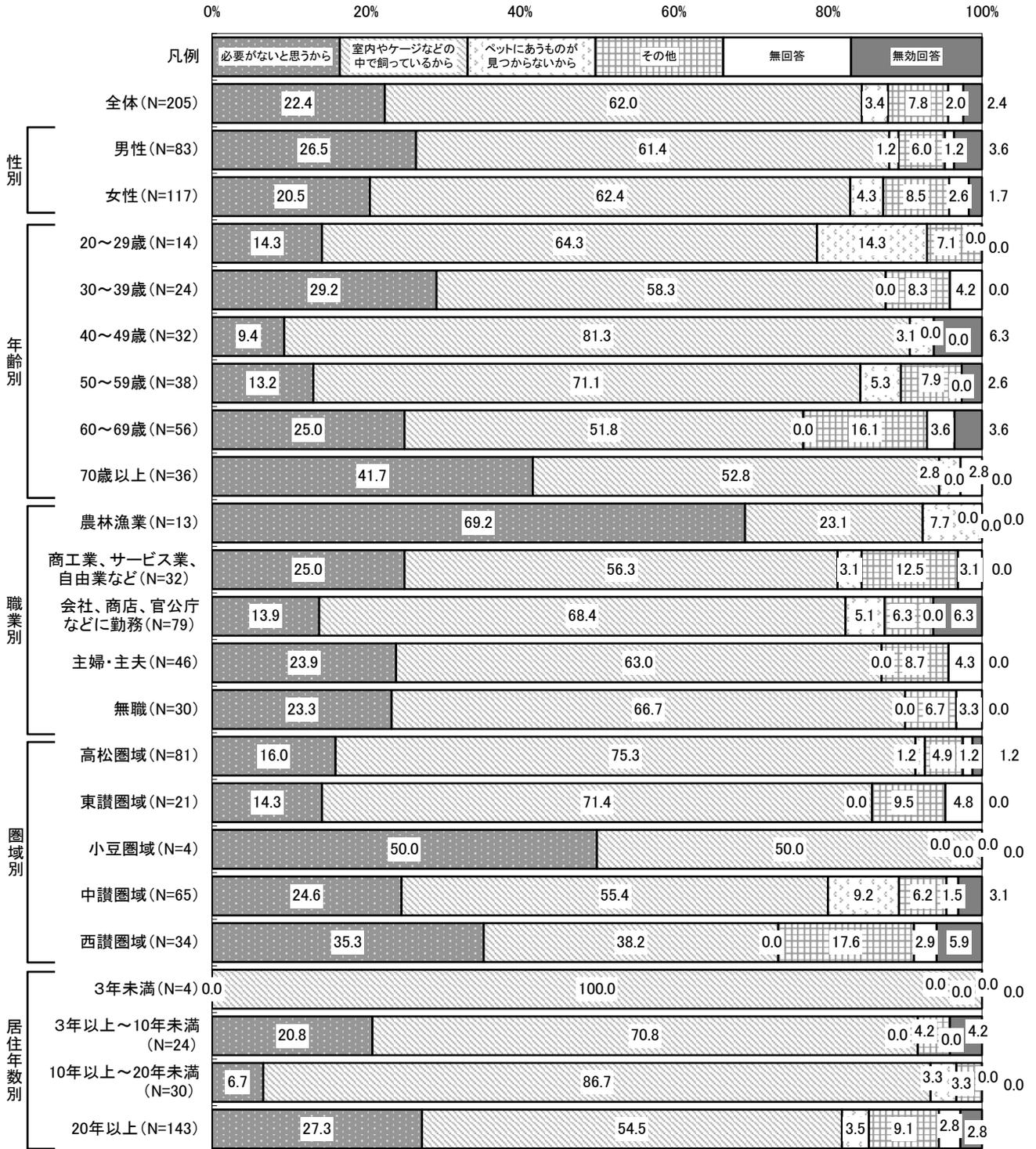
年齢別にみると、いずれも「室内やケージなどの中で飼っているから」が半数を超え最も高いが、その割合は『40～49歳』の81.3%から『70歳以上』の51.8%まで年齢により差がみられる。また、これに、いずれも「必要がないと思うから」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「必要がないと思うから」が69.2%と7割近くを占め最も高く、これに「室内やケージなどの中で飼っているから」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「室内やケージなどの中で飼っているから」が半数を超え最も高く、これに「必要がないと思うから」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「必要がないと思うから」、「室内やケージなどの中で飼っているから」がともに半数ずつとなっている。その他の圏域では、いずれも「室内やケージなどの中で飼っているから」が最も高くなっているが、その割合は『高松圏域』の75.3%から『西讃圏域』の38.2%まで圏域により差がみられる。また、これに、いずれも「必要がないと思うから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「室内やケージなどの中で飼っているから」が最も高く、これに、いずれも「必要がないと思うから」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
迷子対策をしていない理由



(7) 犬または猫の不妊・去勢手術をしているかどうか

<犬または猫を飼っている方にお聞きします>

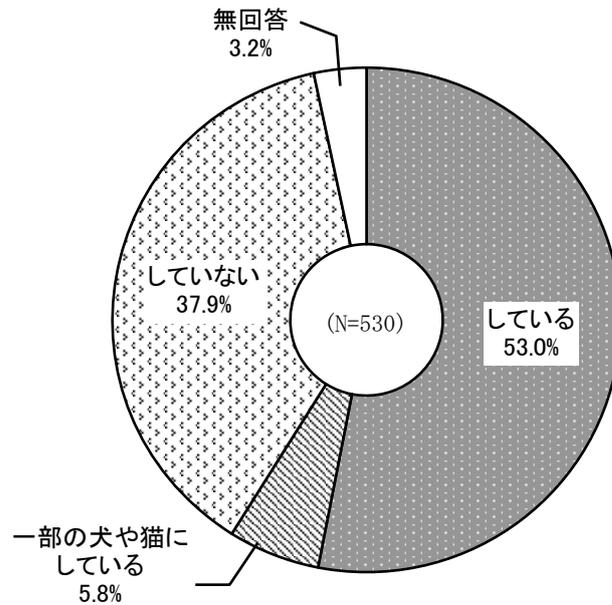
付問6 犬または猫の不妊・去勢手術をしていますか。次の中から1つ選んでください。

[回答者数=530]

1 している	53.0%
2 一部の犬や猫にしている	5.8%
3 していない	37.9%
(無回答)	3.2%

犬または猫の不妊・去勢手術をしているかどうかについては、「している」が53.0%と半数を占め最も高く、次いで「していない」が37.9%、「一部の犬や猫にしている」が5.8%となっている。

< 犬または猫の不妊・去勢手術をしているかどうか >



性別にみると、男女とも「している」が最も高く、『男性』で51.8%、『女性』で55.2%となっている。また、「一部の犬や猫にしている」を合せると、『男性』で56.3%、『女性』で62.4%となっている。

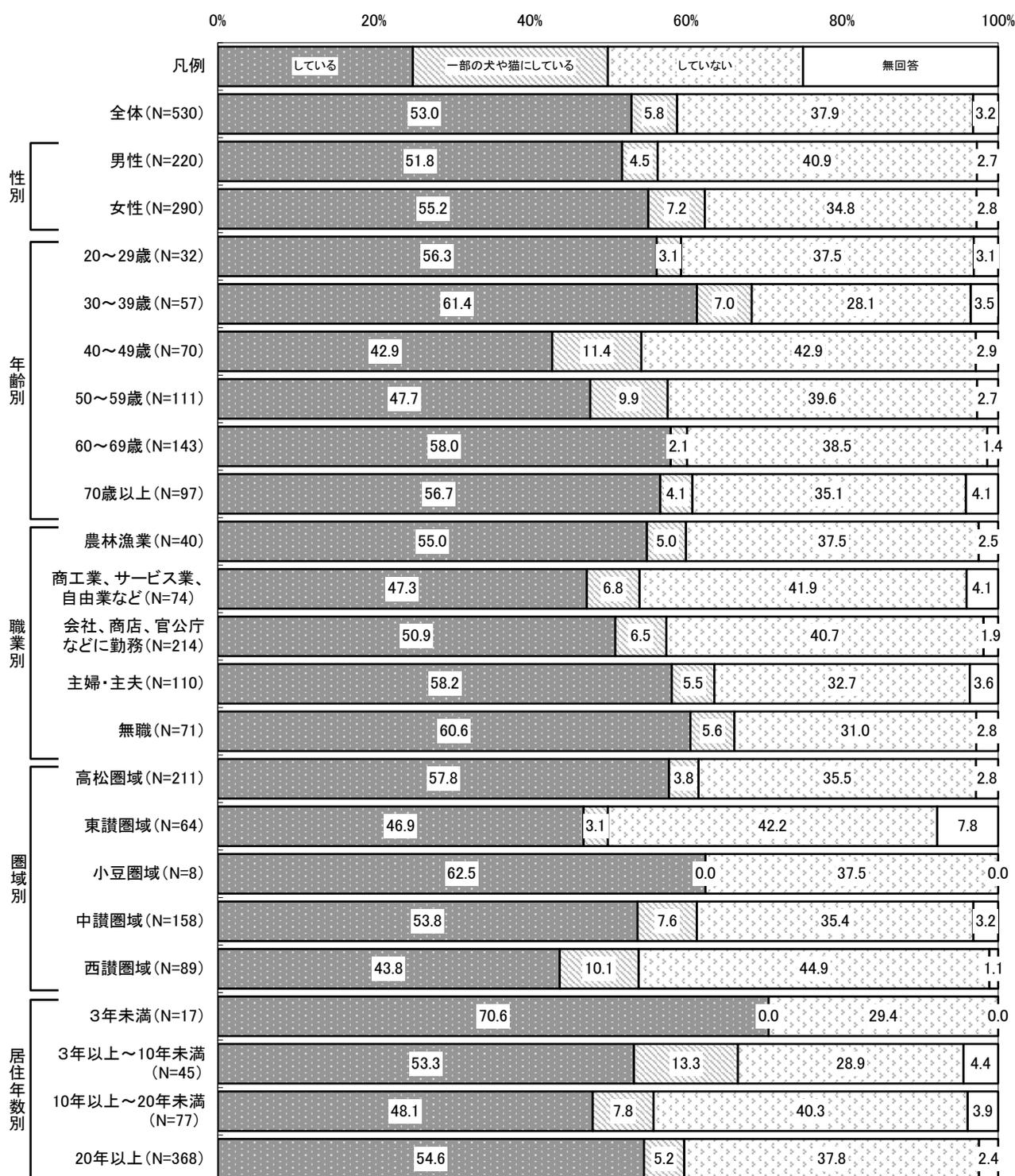
年齢別にみると、いずれも「している」が4割を超えており、特に『30～39歳』では61.4%と高い。また、「一部の犬や猫にしている」を合せた割合も、他の年齢層に比較して『30～39歳』が68.4%と高い。

職業別にみると、いずれも「している」が4割を超えており、「一部の犬や猫にしている」を合せると、『無職』が66.2%で最も高い。

圏域別にみると、『西讃圏域』では「していない」が44.9%と最も高く、「している」を僅かに上回っている。一方、その他の圏域では、いずれも「している」が、「していない」を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「している」が4割を超えており、特に『3年未満』で70.6%と高い。また、「一部の犬や猫にしている」を合せた割合は、『3年未満』の70.6%から『10年以上～20年未満』55.9%の間に分布している。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
犬または猫の不妊・去勢手術をしているかどうか



(8) 犬または猫の不妊・去勢手術をしていない理由

<付問6で「2」または「3」と答えた方にお聞きします>

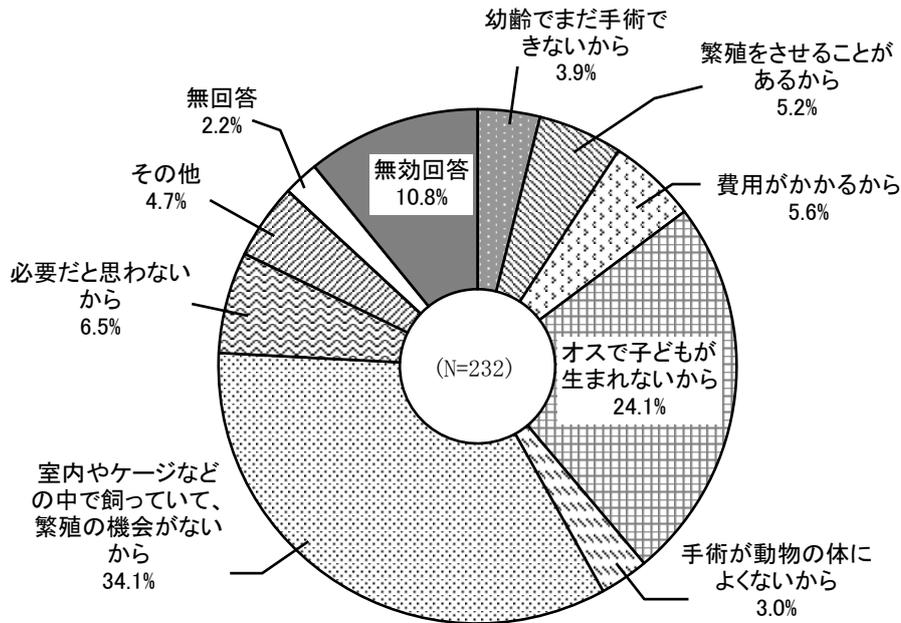
付問7 犬または猫の不妊・去勢手術をしていない理由は何ですか。主な理由を1つだけ選んで下さい。

[回答者数=232]

1 幼齢でまだ手術できないから	3.9%
2 繁殖をさせることがあるから	5.2%
3 費用がかかるから	5.6%
4 オスで子どもが生まれないから	24.1%
5 手術が動物の体によくないから	3.0%
6 室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから	34.1%
7 必要だと思わないから	6.5%
8 その他（具体的に：)	4.7%
(無回答)	2.2%
無効回答（2つ以上選択された場合、無効回答とさせていただきます）	10.8%

犬または猫の不妊・去勢手術をしていない理由については、「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」が34.1%で3割を超え最も高く、次いで「オスで子どもが生まれないから」が24.1%、「必要だと思わないから」が6.5%などとなっている。

< 犬または猫の不妊・去勢手術をしていない理由 >



性別にみると、男女とも「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」が最も高く、『男性』で28.0%、『女性』で38.5%となっている。これに、男女とも「オスで子どもが生まれないから」が続いている。

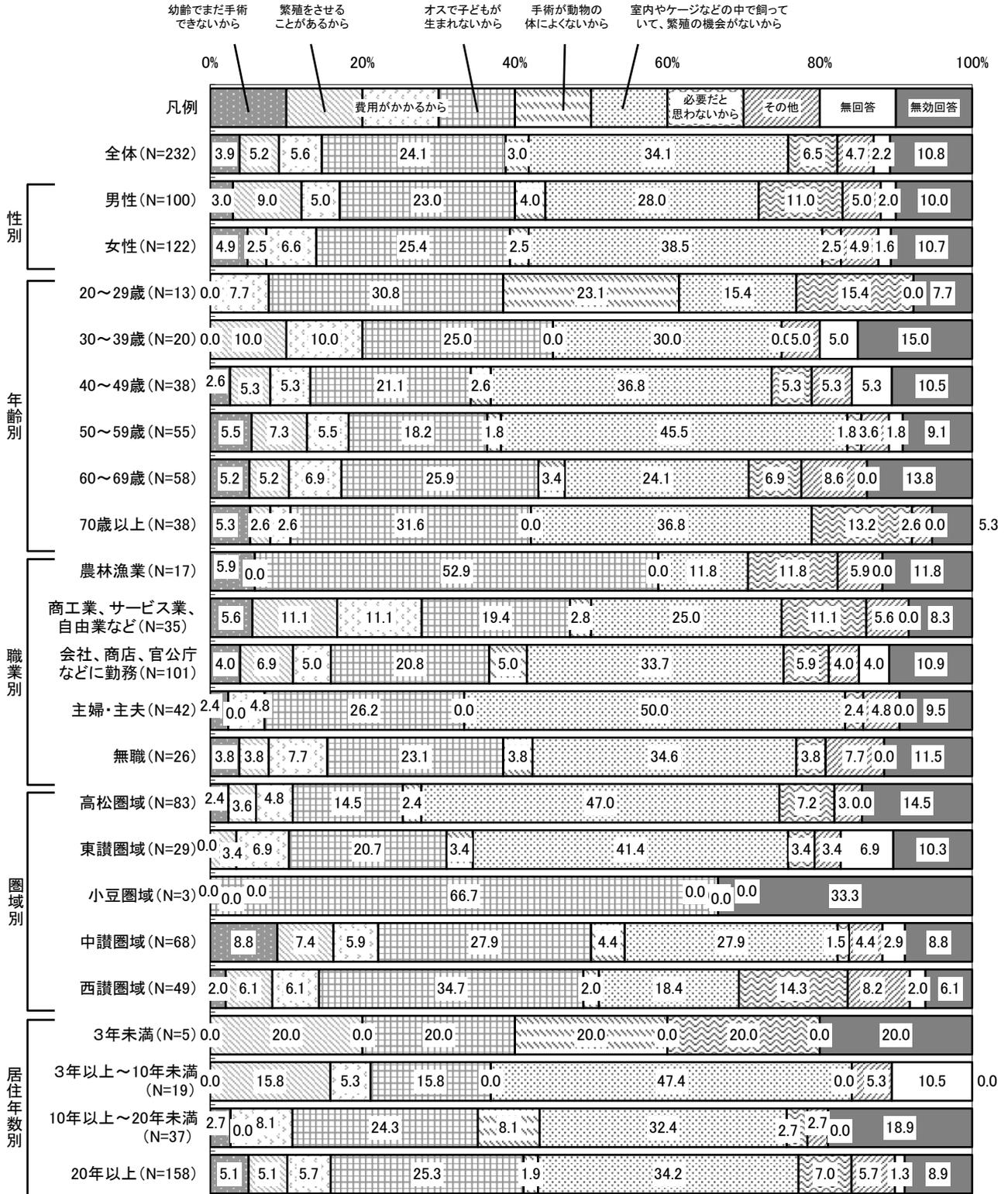
年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』では「オスで子どもが生まれないから」が最も高く、これに『20～29歳』では「手術が動物の体によくないから」、『60～69歳』では「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」が続いている。また、その他の年齢層では、いずれも「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」が最も高く、これに、いずれも「オスで子どもが生まれないから」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「オスで子どもが生まれないから」が52.9%と半数を超え最も高く、これに「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」、「必要だと思わないから」が続いている。その他の職業では、いずれも「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」が最も高く、これに、いずれも「オスで子どもが生まれないから」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』では「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」が最も高く、これに「オスで子どもが生まれないから」が続いている。その他の圏域では、「オスで子どもが生まれないから」が最も高い。

居住年数別にみると、『3年未満』では「繁殖をさせることがあるから」、「オスで子どもが生まれないから」、「手術が動物の体によくないから」、「必要だと思わないから」がそれぞれ2割となっている。その他の居住年数では、いずれも「室内やケージなどの中で飼っていて、繁殖の機会がないから」が最も高く、これに『3年以上～10年未満』では「繁殖をさせることがあるから」、「オスで子どもが生まれないから」が、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「オスで子どもが生まれないから」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 犬または猫の不妊・去勢手術をしていない理由



(9) どのようにして猫を飼っているか

<猫を飼っている方にお聞きします>

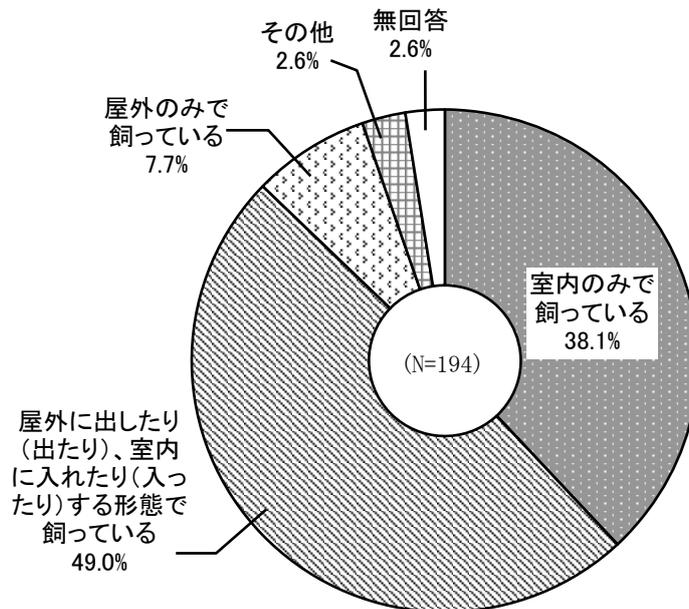
付問8 どのようにして猫を飼っていますか。次の中から1つ選んでください。

[回答者数=194]

1 室内のみで飼っている	38.1%
2 屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている	49.0%
3 屋外のみで飼っている	7.7%
4 その他（具体的に： ）	2.6%
（無回答）	2.6%

どのようにして猫を飼っているかについては、「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が49.0%で半数近くを占め最も高く、次いで「室内のみで飼っている」が38.1%、「屋外のみで飼っている」が7.7%などとなっている。

< どのようにして猫を飼っているか >



性別にみると、男女とも「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が最も高く、『男性』で 49.3%、『女性』で 47.5%となっている。これに、男女とも「室内のみで飼っている」が続いている。

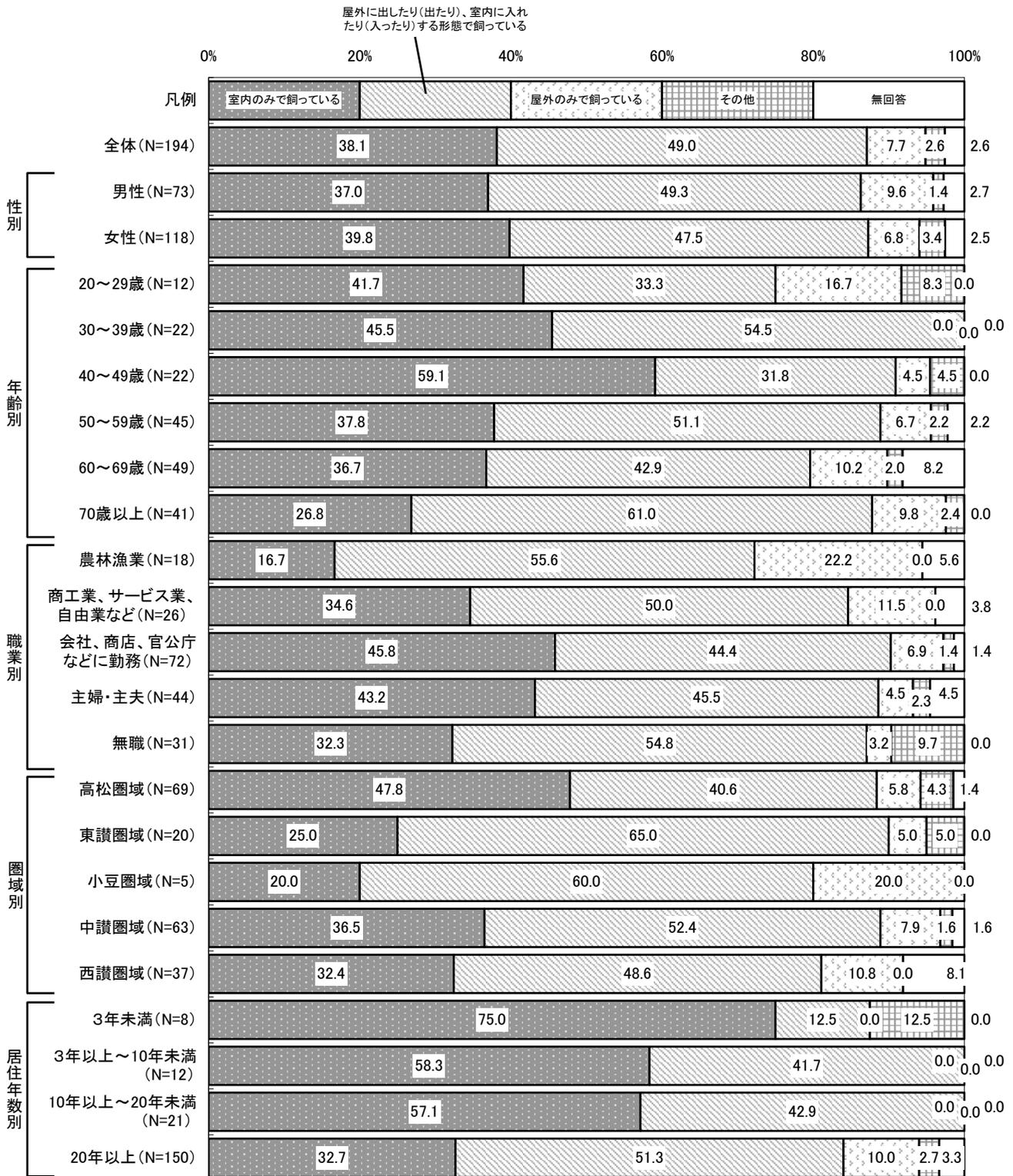
年齢別にみると、『20～29 歳』、『40～49 歳』では「室内のみで飼っている」が 4 割を超え最も高く、これに、「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が続いている。一方、その他の年齢層では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が最も高く、特に『70 歳以上』で 61.0%と高い割合を占めている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では、「室内のみで飼っている」が 45.8%を占め最も高く、これに「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が最も高くなっている。また、『農林漁業』では「屋外のみで飼っている」が 2 割を超えている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「室内のみで飼っている」が 47.8%で最も高く、これに「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が 4 割を超え最も高く、特に『東讃圏域』は 65.0%を占めている。

居住年数別にみると、『20 年以上』では「屋外に出したり（出たり）、室内に入れたり（入ったり）する形態で飼っている」が半数を超え最も高く、これに「室内のみで飼っている」が続いている。一方、その他の居住年数では、いずれも「室内のみで飼っている」が半数を超え最も高く、特に『3 年未満』では 75.0%と 7 割を超えている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 どのようにして猫を飼っているか



(10) 動物のことで迷惑を感じたことがあるか、また、それはどんな動物からか

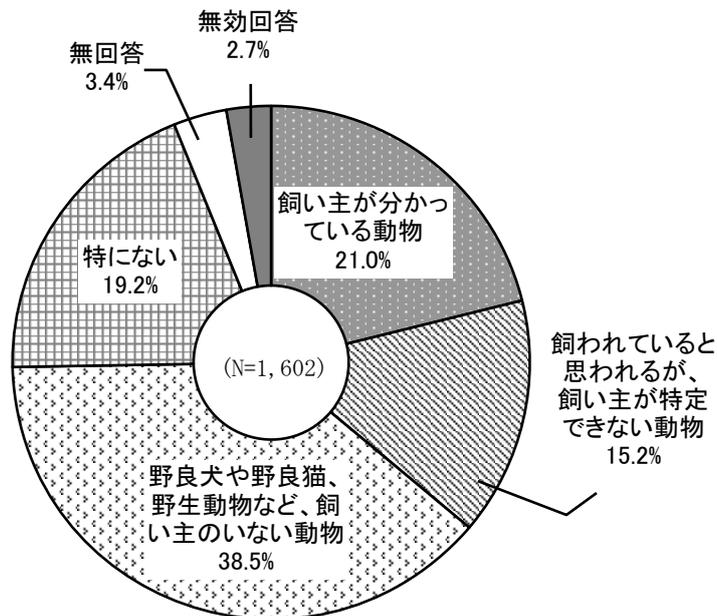
問6 動物のことで迷惑を感じたことがありますか。それは、どんな動物からですか。次の中から主なものを1つだけ選んで下さい。

〔回答者数=1,602〕

1 飼い主が分かっている動物	21.0%
2 飼われていると思われるが、飼い主が特定できない動物	15.2%
3 野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物	38.5%
4 特にない	19.2%
(無回答)	3.4%
無効回答 (2つ以上選択された場合、無効回答とさせていただきました)	2.7%

動物のことで迷惑を感じたことがあるか、また、それはどんな動物からかについては、「野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物」が38.5%で4割近くを占め最も高く、次いで「飼い主が分かっている動物」が21.0%、「特にない」が19.2%などとなっている。

〈 動物のことで迷惑を感じたことがあるか、また、それはどんな動物からか 〉



性別にみると、男女とも「野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物」が最も高く、『男性』で39.2%、『女性』で37.8%となっている。これに、男女とも「飼い主が分かっている動物」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物」が3割を超え最も高い。また、これに『20～29歳』、『30～39歳』、『50～59歳』では「特にない」、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「飼い主が分かっている動物」が続いている。

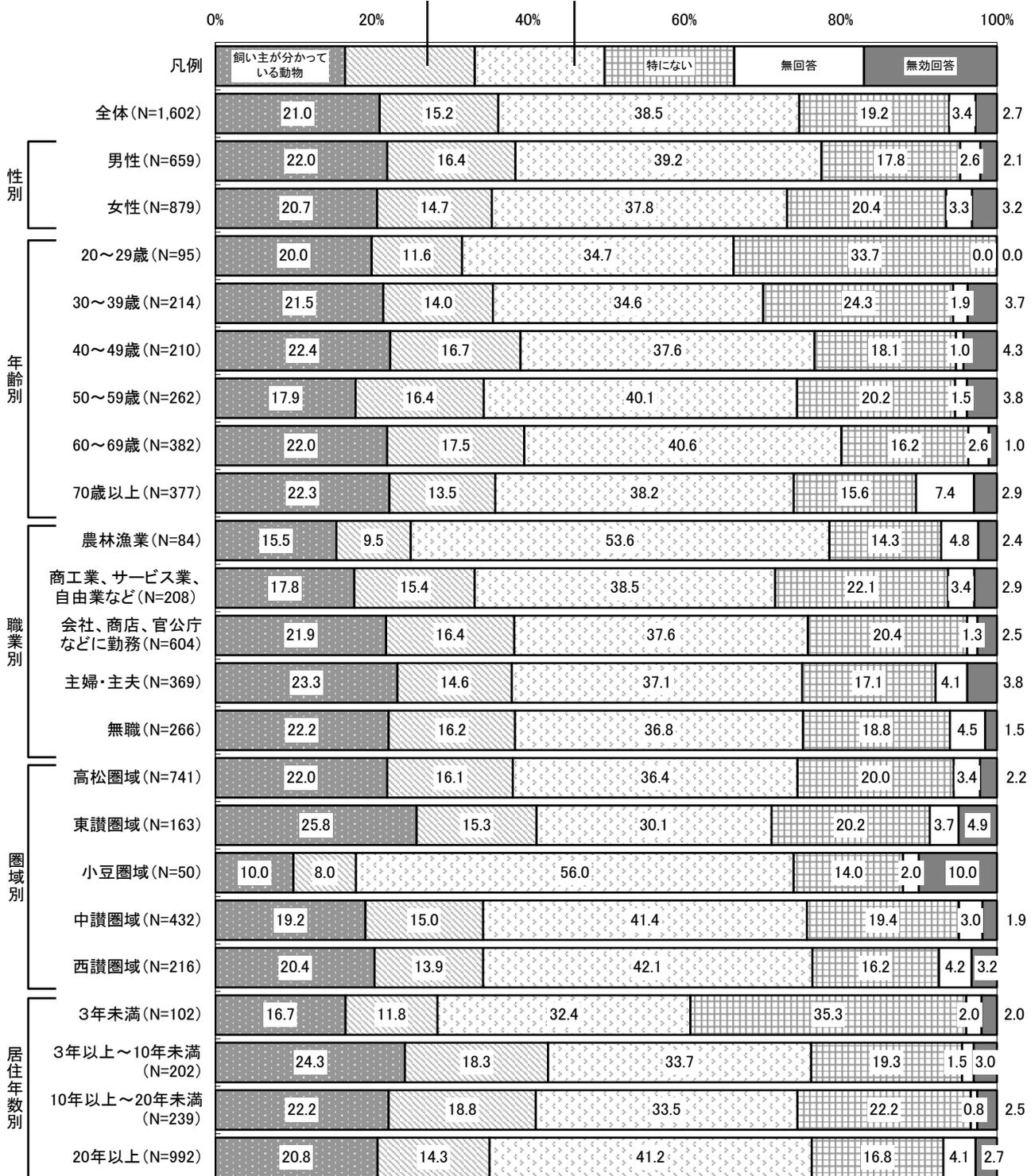
職業別にみると、いずれも「野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物」が3割を超え最も高く、特に『農林漁業』は53.6%と半数を超えている。また、これに『商工業、サービス業、自由業など』では「特にない」、その他の職業では、いずれも「飼い主が分かっている動物」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物」が3割を超え最も高く、特に『小豆圏域』は56.0%と半数を超えている。これに、『高松圏域』、『東讃圏域』、『西讃圏域』では「飼い主が分かっている動物」、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「特にない」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「特にない」が3割を超え最も高く、これに「野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物」が続いている。一方、その他の居住年数では、いずれも「野良犬や野良猫、野生動物など、飼い主のいない動物」が3割を超え最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
動物のことで迷惑を感じたことがあるか、また、それはどんな動物からか

飼われていると思われるが、
飼い主が特定できない動物 野良犬や野良猫、野生動物
など、飼い主のいない動物



(11) 災害時にペットに関して一番不安なこと

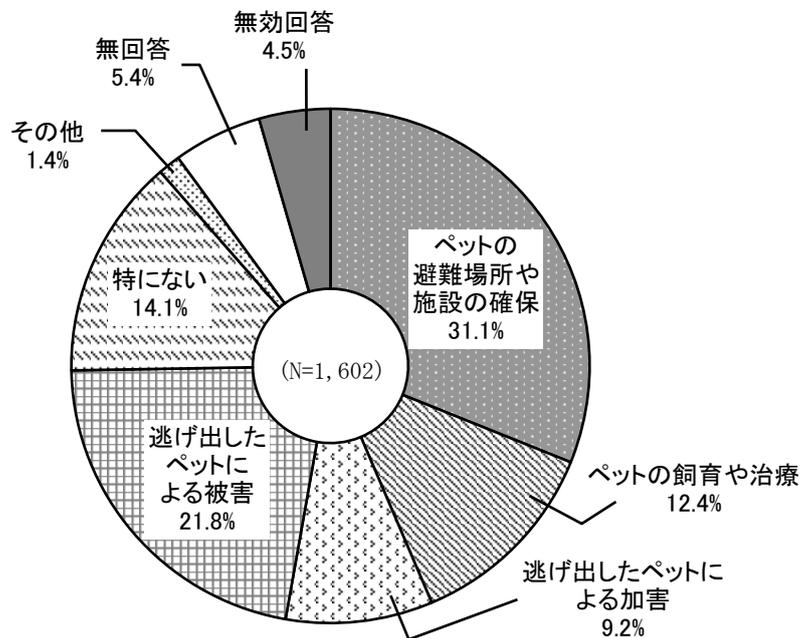
問7 災害時にペットに関する事で、一番不安なことは何ですか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。

〔回答者数=1,602〕

1	ペットの避難場所や施設の確保	31.1%
2	ペットの飼育や治療	12.4%
3	逃げ出したペットによる加害	9.2%
4	逃げ出したペットによる被害	21.8%
5	特にない	14.1%
6	その他（具体的に：)	1.4%
	（無回答）	5.4%
	無効回答（2つ以上選択された場合、無効回答とさせていただきます）	4.5%

災害時にペットに関して一番不安なことについては、「ペットの避難場所や施設の確保」が31.1%で3割を超え最も高く、次いで「逃げ出したペットによる被害」が21.8%、「特にない」が14.1%などとなっている。

＜ 災害時にペットに関して一番不安なこと ＞



性別にみると、男女とも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高く、『男性』で25.2%、『女性』で35.9%となっている。これに、男女とも「逃げ出したペットによる被害」が続いている。

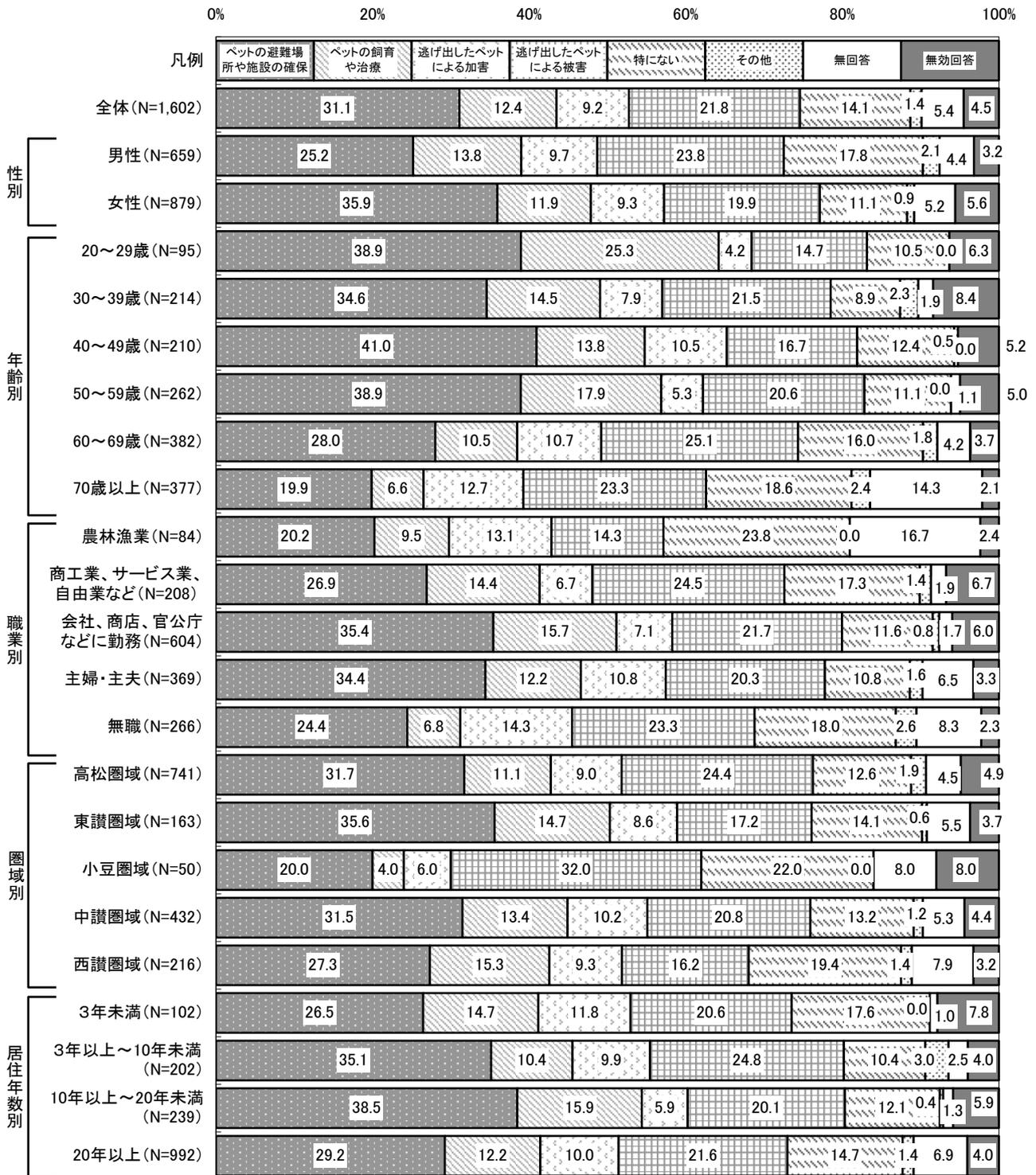
年齢別にみると、『70歳以上』では「逃げ出したペットによる被害」が23.3%で最も高く、これに「ペットの避難場所や施設の確保」が続いている。一方、その他の年齢層では、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高く、特に『40～49歳』は41.0%と4割を超えている。これに『20～29歳』では「ペットの飼育や治療」、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『60～69歳』では「逃げ出したペットによる被害」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「特にない」が23.8%で最も高く、これに「ペットの避難場所や施設の確保」が続いている。一方、その他の職業では、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高く、これに、いずれも「逃げ出したペットによる被害」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「逃げ出したペットによる被害」が最も高く、これに「ペットの避難場所や施設の確保」が続いている。一方、その他の圏域では、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高く、これに『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「逃げ出したペットによる被害」、『西讃圏域』では「特にない」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「ペットの避難場所や施設の確保」が最も高く、これに、いずれも「逃げ出したペットによる被害」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
災害時にペットに関して一番不安なこと



(12) 今後、動物愛護管理事業として最も取り組むべき事業

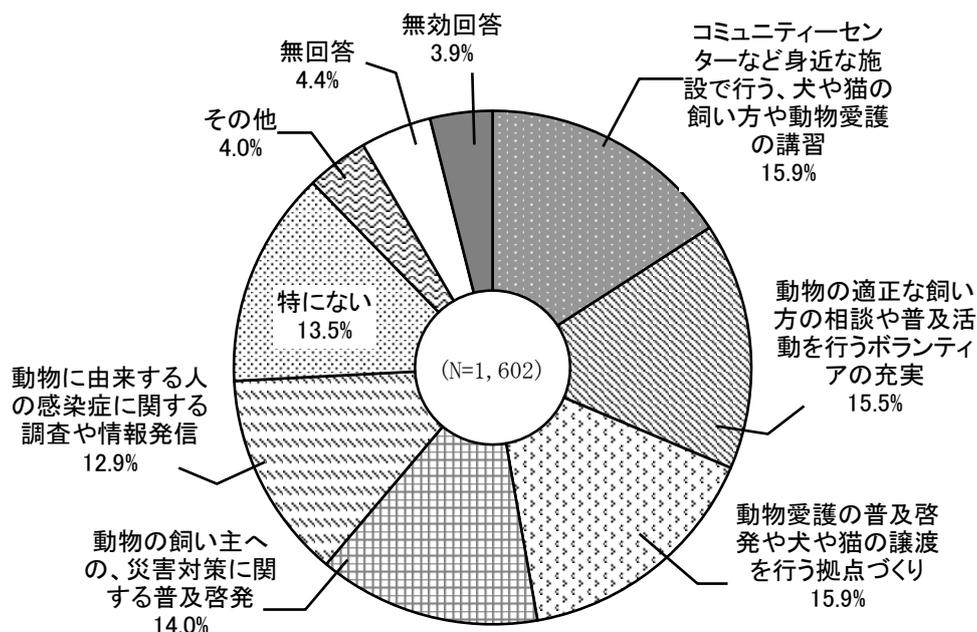
問8 今後、動物愛護管理事業として最も取り組むべきと思われる事業は何ですか。次の中から1つだけ選んで下さい。

[回答者数=1,602]

1 コミュニティーセンターなど身近な施設で行う、犬や猫の飼い方や動物愛護の講習	15.9%
2 動物の適正な飼い方の相談や普及活動を行うボランティアの充実	15.5%
3 動物愛護の普及啓発や犬や猫の譲渡を行う拠点づくり	15.9%
4 動物の飼い主への、災害対策に関する普及啓発	14.0%
5 動物に由来する人の感染症に関する調査や情報発信	12.9%
6 特になし	13.5%
7 その他（具体的に：)	4.0%
(無回答)	4.4%
無効回答（2つ以上選択された場合、無効回答とさせていただきます）	3.9%

今後、動物愛護管理事業として最も取り組むべき事業については、「コミュニティーセンターなど身近な施設で行う、犬や猫の飼い方や動物愛護の講習」、「動物愛護の普及啓発や犬や猫の譲渡を行う拠点づくり」がともに 15.9%で最も高く、次いで「動物の適正な飼い方の相談や普及活動を行うボランティアの充実」が 15.5%などとなっている。

＜ 今後、動物愛護管理事業として最も取り組むべき事業 ＞



性別にみると、『男性』では「動物愛護の普及啓発や犬や猫の譲渡を行う拠点づくり」が16.8%で最も高く、『女性』では「コミュニティーセンターなど身近な施設で行う、犬や猫の飼い方や動物愛護の講習」が16.6%で最も高くなっている。

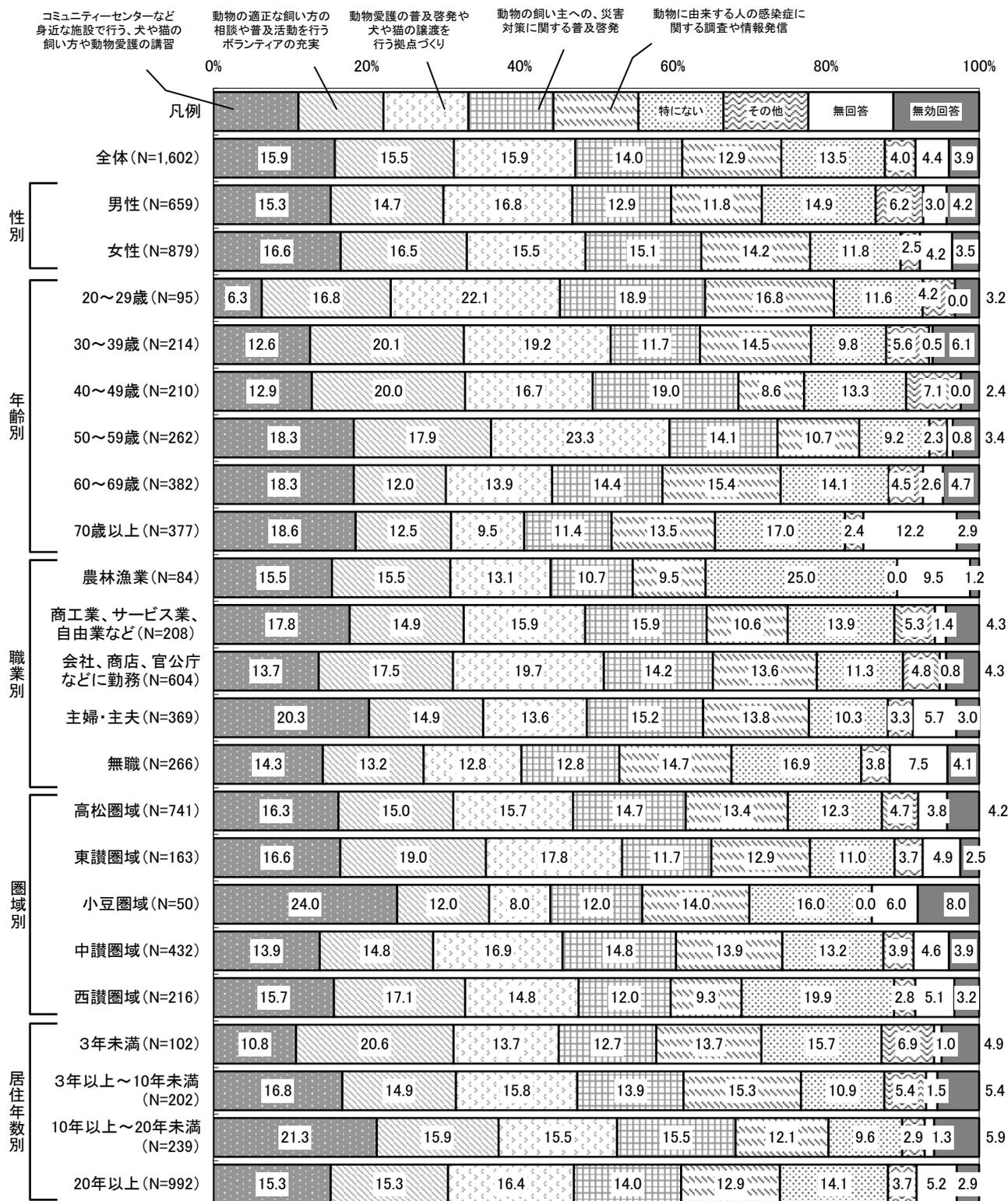
年齢別にみると、『20～29歳』、『50～59歳』では「動物愛護の普及啓発や犬や猫の譲渡を行う拠点づくり」が、『30～39歳』、『40～49歳』では「動物の適正な飼い方の相談や普及活動を行うボランティアの充実」がそれぞれ2割を超え最も高くなっている。また、『60～69歳』、『70歳以上』では「コミュニティーセンターなど身近な施設で行う、犬や猫の飼い方や動物愛護の講習」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「特にない」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「コミュニティーセンターなど身近な施設で行う、犬や猫の飼い方や動物愛護の講習」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「動物愛護の普及啓発や犬や猫の譲渡を行う拠点づくり」がそれぞれ最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』では「コミュニティーセンターなど身近な施設で行う、犬や猫の飼い方や動物愛護の講習」が、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「動物愛護の普及啓発や犬や猫の譲渡を行う拠点づくり」が、『西讃圏域』では「特にない」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「動物の適正な飼い方の相談や普及活動を行うボランティアの充実」が、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』では「コミュニティーセンターなど身近な施設で行う、犬や猫の飼い方や動物愛護の講習」が、『20年以上』では「動物愛護の普及啓発や犬や猫の譲渡を行う拠点づくり」が最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 今後、動物愛護管理事業として最も取り組むべき事業



3 ボランティア・NPO活動について

(1) ボランティアやNPO活動にどの程度関心があるか

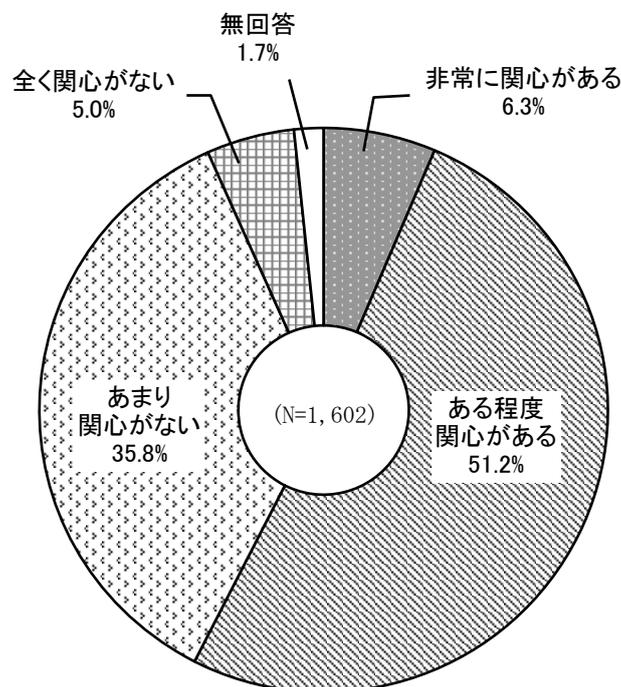
問9 あなたは、ボランティアやNPO活動にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

〔回答者数=1,602〕

1 非常に関心がある	6.3%
2 ある程度関心がある	51.2%
3 あまり関心がない	35.8%
4 全く関心がない	5.0%
(無回答)	1.7%

ボランティアやNPO活動にどの程度関心があるかについては、「ある程度関心がある」が51.2%と半数を超え最も高く、これに「非常に関心がある」の6.3%を合わせた【関心がある】が57.5%と6割近くを占める。一方、「あまり関心がない」が35.8%で、「全く関心がない」の5.0%をあわせた【関心がない】は40.8%となっている。

〈 ボランティアやNPO活動にどの程度関心があるか 〉



性別にみると、男女とも「ある程度関心がある」が最も高く、その比率は『男性』は48.7%、『女性』は53.0%となっており、また、男女ともこれに「非常に関心がある」を合わせた【関心がある】が、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた【関心がない】を上回っている。

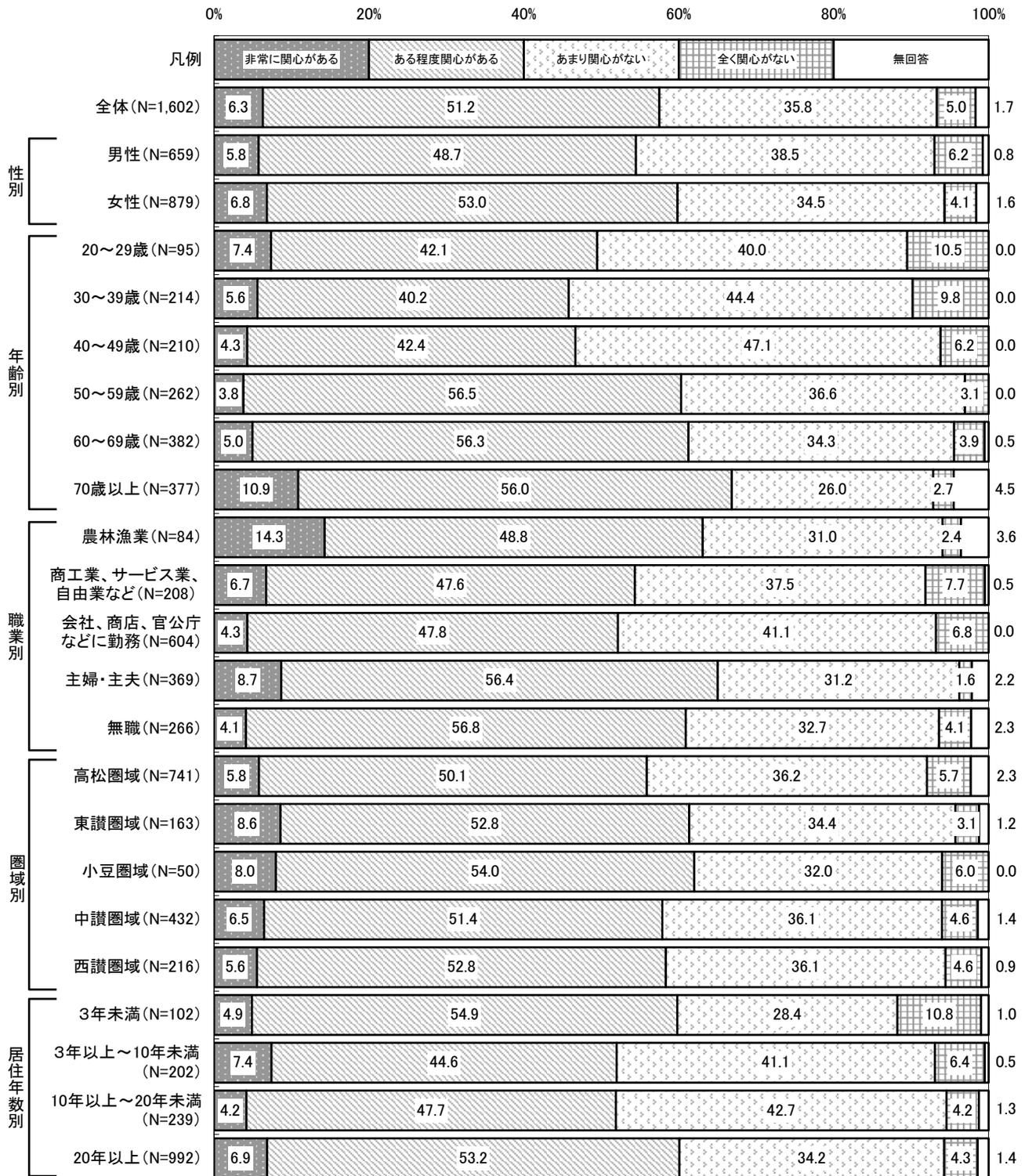
年齢別にみると、『30～39歳』、『40～49歳』では「あまり関心がない」が4割を超え最も高く、【関心がない】が【関心がある】を上回っている。一方、その他の年齢層では、いずれも「ある程度関心がある」が4割を超え最も高く、特に『50～59歳』は56.5%、『60～69歳』は56.3%、『70歳以上』は56.0%と半数を超えており、また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

職業別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が4割を超え最も高く、特に『主婦・主夫』は56.4%、『無職』は56.8%と半数を超えており、また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が半数を超え最も高く、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が4割を超え最も高く、特に『3年未満』は54.9%、『20年以上』は53.2%と半数を超えており、また、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
ボランティアやNPO活動にどの程度関心があるか



(2) ボランティアやNPO活動をしたことがあるか

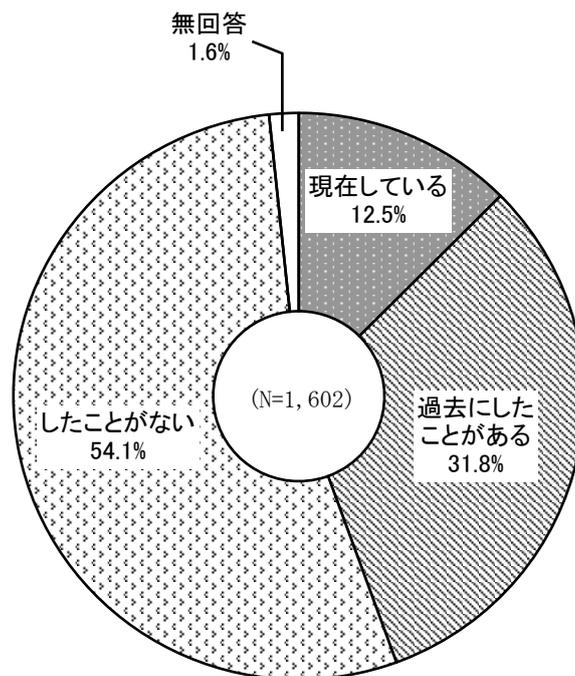
問 10 あなたは、これまでにボランティアやNPO活動をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

〔回答者数=1,602〕

1 現在している	12.5%
2 過去にしたことがある	31.8%
3 したことがない	54.1%
(無回答)	1.6%

ボランティアやNPO活動をしたことがあるかについては、「したことがない」が54.1%と半数を超え最も高く、次いで「過去にしたことがある」が31.8%となっている。また、「現在している」は12.5%となっている。

く ボランティアやNPO活動をしたことがあるか >



性別にみると、男女とも「したことがない」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』は 55.8%、『女性』は 52.8%となっており、これに「過去にしたことがある」が続いている。

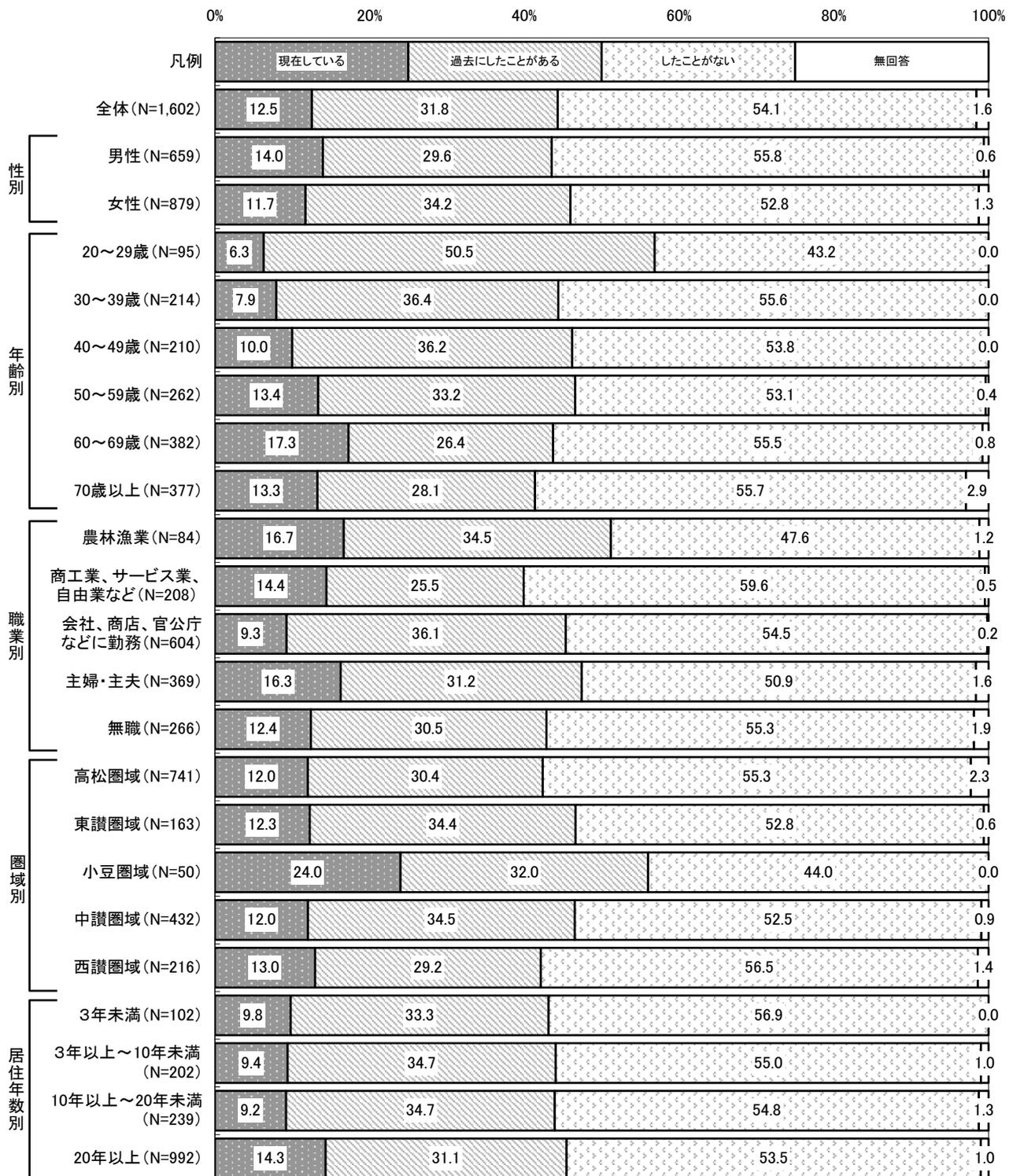
年齢別にみると、『20～29 歳』では「過去にしたことがある」が半数を超え最も高く、これに「したことがない」が続いている。一方、その他の年齢層では、いずれも「したことがない」が半数を超え最も高く、これに、いずれも「過去にしたことがある」が続いている。

職業別にみると、いずれも「したことがない」が 4 割を超え最も高く、特に『商工業、サービス業、自由業など』は 59.6%と 6 割近くを占める。また、これに、いずれも「過去にしたことがある」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「したことがない」が 4 割を超え最も高く、これに、いずれも「過去にしたことがある」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「したことがない」が半数を超え最も高く、これに、いずれも「過去にしたことがある」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
ボランティアやNPO活動をしたことがあるか



(3) したことがあるボランティアやNPO活動について

<問10で「1」または「2」と答えた方にお聞きします>

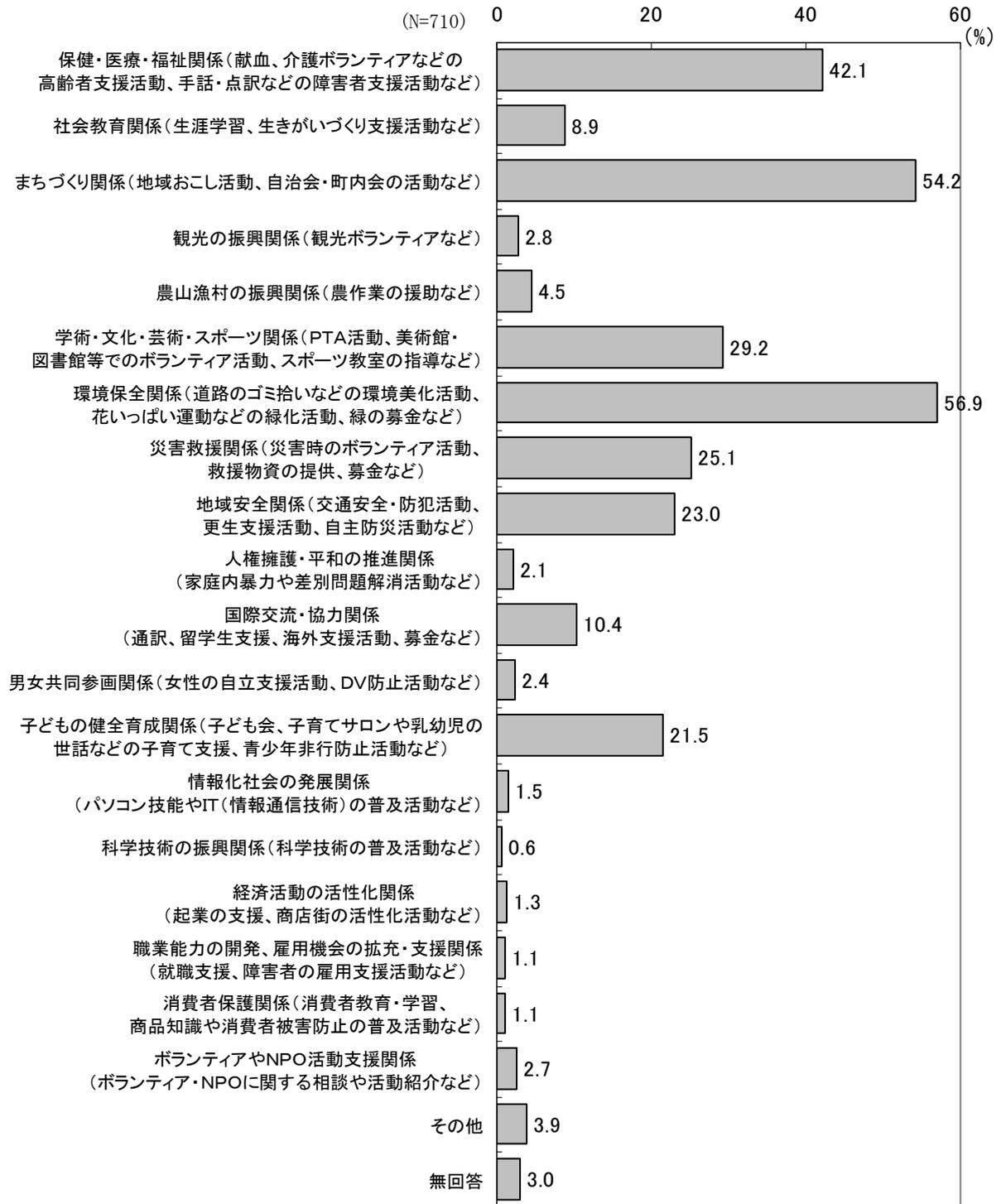
付問1 あなたがこれまでにしたことがあるボランティアやNPO活動を次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

[回答者数=710]

1 保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	42.1%
2 社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	8.9%
3 まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	54.2%
4 観光の振興関係（観光ボランティアなど）	2.8%
5 農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	4.5%
6 学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	29.2%
7 環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	56.9%
8 災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	25.1%
9 地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	23.0%
10 人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	2.1%
11 国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	10.4%
12 男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	2.4%
13 子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	21.5%
14 情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	1.5%
15 科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.6%
16 経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	1.3%
17 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	1.1%
18 消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	1.1%
19 ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	2.7%
20 その他（具体的に：)	3.9%
（無回答）	3.0%

したことがあるボランティアやNPO活動については、「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が56.9%と半数を超え最も高く、次いで「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が54.2%などとなっている。

く したことがあるボランティアやNPO活動について 〉



性別にみると、男女とも「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が半数を超え最も高く、その比率は『男性』は62.0%、『女性』は54.7%となっている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『50～59歳』では「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が半数を超え最も高く、『30～39歳』では「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」、『60～69歳』、『70歳以上』では「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」がそれぞれ最も高くなっている。また、『40～49歳』では「学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）」が最も高く、次いで「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」、「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が同率で高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が6割を超え最も高く、また、その他の職業では、いずれも「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が半数を超え最も高く、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が半数を超え最も高くなっている。また、『西讃圏域』では「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」、「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が同率で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『10年以上～20年未満』では「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」が半数を超え最も高く、また、『3年以上～10年未満』、『20年以上』では「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が半数を超え最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
したことがあるボランティアやNPO活動について

(単位:%)

区分		回答者数(人)	保健・医療・福祉関係	社会教育関係	まちづくり関係	観光の振興関係	農山漁村の振興関係	学術・文化・芸術・スポーツ関係	環境保全関係	災害救援関係	地域安全関係	人権擁護・平和の推進関係	国際交流・協力関係	男女共同参画関係	子どもの健全育成関係	情報化社会の発展関係	科学技術の振興関係	経済活動の活性化関係	職業能力の開発・雇用機会の拡充・支援関係	消費者保護関係	ボランティアやNPO活動支援関係	その他	無回答
全体		710	42.1	8.9	54.2	2.8	4.5	29.2	56.9	25.1	23.0	2.1	10.4	2.4	21.5	1.5	0.6	1.3	1.1	1.1	2.7	3.9	3.0
性別	男性	287	35.9	7.3	59.9	1.7	9.1	24.7	62.0	22.6	20.9	2.1	9.1	2.8	18.5	1.7	1.4	2.1	2.1	1.4	1.7	3.1	3.5
	女性	404	46.0	9.9	51.2	3.5	1.5	33.4	54.7	27.2	24.5	2.2	11.6	2.2	24.3	1.5	0.0	0.7	0.5	1.0	3.5	4.0	2.2
年齢別	20～29歳	54	38.9	7.4	25.9	5.6	0.0	11.1	66.7	31.5	5.6	0.0	11.1	0.0	5.6	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	5.6	5.6
	30～39歳	95	48.4	6.3	40.0	2.1	1.1	32.6	40.0	29.5	10.5	1.1	15.8	0.0	15.8	0.0	0.0	2.1	0.0	1.1	4.2	4.2	2.1
	40～49歳	97	52.6	8.2	47.4	3.1	2.1	54.6	52.6	27.8	16.5	2.1	12.4	3.1	28.9	3.1	1.0	2.1	2.1	0.0	2.1	5.2	1.0
	50～59歳	122	45.1	5.7	52.5	0.8	2.5	45.1	63.1	26.2	24.6	1.6	13.1	1.6	23.8	1.6	0.0	0.0	1.6	0.8	1.6	3.3	2.5
	60～69歳	167	39.5	9.0	70.1	3.0	8.4	24.0	59.9	25.1	32.9	3.6	7.8	3.6	23.4	1.2	0.6	0.6	0.6	1.8	1.2	2.4	2.4
	70歳以上	156	32.1	13.5	64.1	3.2	7.7	13.5	62.2	18.6	28.8	2.6	7.1	3.8	23.7	2.6	0.6	2.6	1.9	1.9	5.1	3.2	3.8
職業別	農林漁業	43	48.8	7.0	81.4	0.0	39.5	16.3	62.8	20.9	37.2	4.7	4.7	7.0	23.3	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	2.3
	商工業、サービス業、自由業など	83	44.6	9.6	53.0	3.6	4.8	26.5	60.2	34.9	24.1	2.4	15.7	1.2	25.3	2.4	1.2	7.2	1.2	1.2	1.2	2.4	4.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	274	46.7	6.2	45.3	2.9	1.8	40.1	57.7	25.2	16.4	1.5	11.3	1.8	19.3	1.5	0.4	0.7	1.5	0.7	3.6	4.4	1.5
	主婦・主夫	175	37.7	12.0	64.0	2.9	1.1	30.9	54.9	28.0	30.9	2.9	11.4	3.4	29.7	2.3	0.0	0.0	0.0	1.1	2.9	3.4	2.9
無職	114	30.7	10.5	54.4	1.8	3.5	11.4	58.8	16.7	20.2	1.8	6.1	1.8	13.2	0.9	1.8	0.9	1.8	1.8	0.9	4.4	4.4	
圏域別	高松圏域	314	42.7	6.1	51.6	1.9	2.2	27.4	55.7	23.6	22.9	1.3	9.9	2.2	22.0	1.9	0.3	0.3	1.3	1.3	4.8	4.1	3.2
	東讃圏域	76	40.8	18.4	51.3	5.3	5.3	30.3	46.1	31.6	26.3	3.9	10.5	5.3	21.1	2.6	1.3	0.0	2.6	0.0	0.0	3.9	5.3
	小豆圏域	28	32.1	0.0	67.9	7.1	3.6	21.4	60.7	28.6	21.4	3.6	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0
	中讃圏域	201	44.8	9.5	55.2	1.5	5.5	32.8	61.2	22.9	22.9	2.5	10.9	2.5	21.4	0.5	0.5	1.5	0.0	1.5	1.0	3.5	3.0
	西讃圏域	91	38.5	12.1	59.3	5.5	9.9	28.6	59.3	28.6	20.9	2.2	12.1	1.1	23.1	2.2	1.1	4.4	2.2	1.1	2.2	4.4	1.1
居住年数別	3年未満	44	52.3	6.8	38.6	4.5	4.5	34.1	43.2	38.6	13.6	2.3	9.1	2.3	20.5	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	9.1	2.3
	3年以上～10年未満	89	48.3	7.9	42.7	3.4	1.1	36.0	59.6	24.7	15.7	1.1	15.7	2.2	19.1	2.2	1.1	1.1	1.1	0.0	3.4	1.1	2.2
	10年以上～20年未満	105	51.4	6.7	46.7	1.0	1.9	44.8	45.7	26.7	16.2	2.9	9.5	1.9	25.7	1.9	0.0	3.8	1.0	1.0	1.9	4.8	3.8
	20年以上	451	37.5	9.8	60.5	2.9	6.0	24.6	61.4	23.9	26.8	2.2	10.0	2.7	21.5	1.1	0.7	0.9	1.3	1.1	2.7	3.3	2.7

(4) ボランティアやNPO活動をしたことがない理由

<問10で「3」と答えた方にお聞きします>

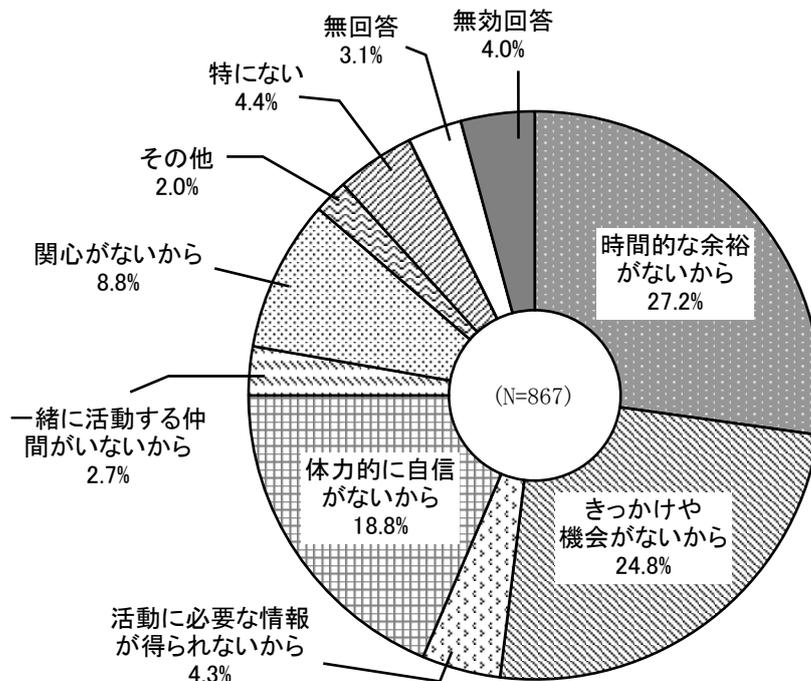
付問2 あなたがボランティアやNPO活動をしたことがない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=867]

1	時間的な余裕がないから	27.2%
2	きっかけや機会がないから	24.8%
3	活動に必要な情報が得られないから	4.3%
4	体力的に自信がないから	18.8%
5	一緒に活動する仲間がないから	2.7%
6	関心がないから	8.8%
7	その他（具体的に：)	2.0%
8	特にない	4.4%
	(無回答)	3.1%
	無効回答（2つ以上選択された場合、無効回答とさせていただきます）	4.0%

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由については、「時間的な余裕がないから」が27.2%と最も高く、次いで「きっかけや機会がないから」が24.8%、「体力的に自信がないから」が18.8%などとなっている。

< ボランティアやNPO活動をしたことがない理由 >



性別にみると、『男性』では「時間的な余裕がないから」、「きっかけや機会がないから」が同率で最も高く、これに「体力的に自信がないから」が続いている。また、『女性』では「時間的な余裕がないから」が最も高く、これに「きっかけや機会がないから」が続いている。

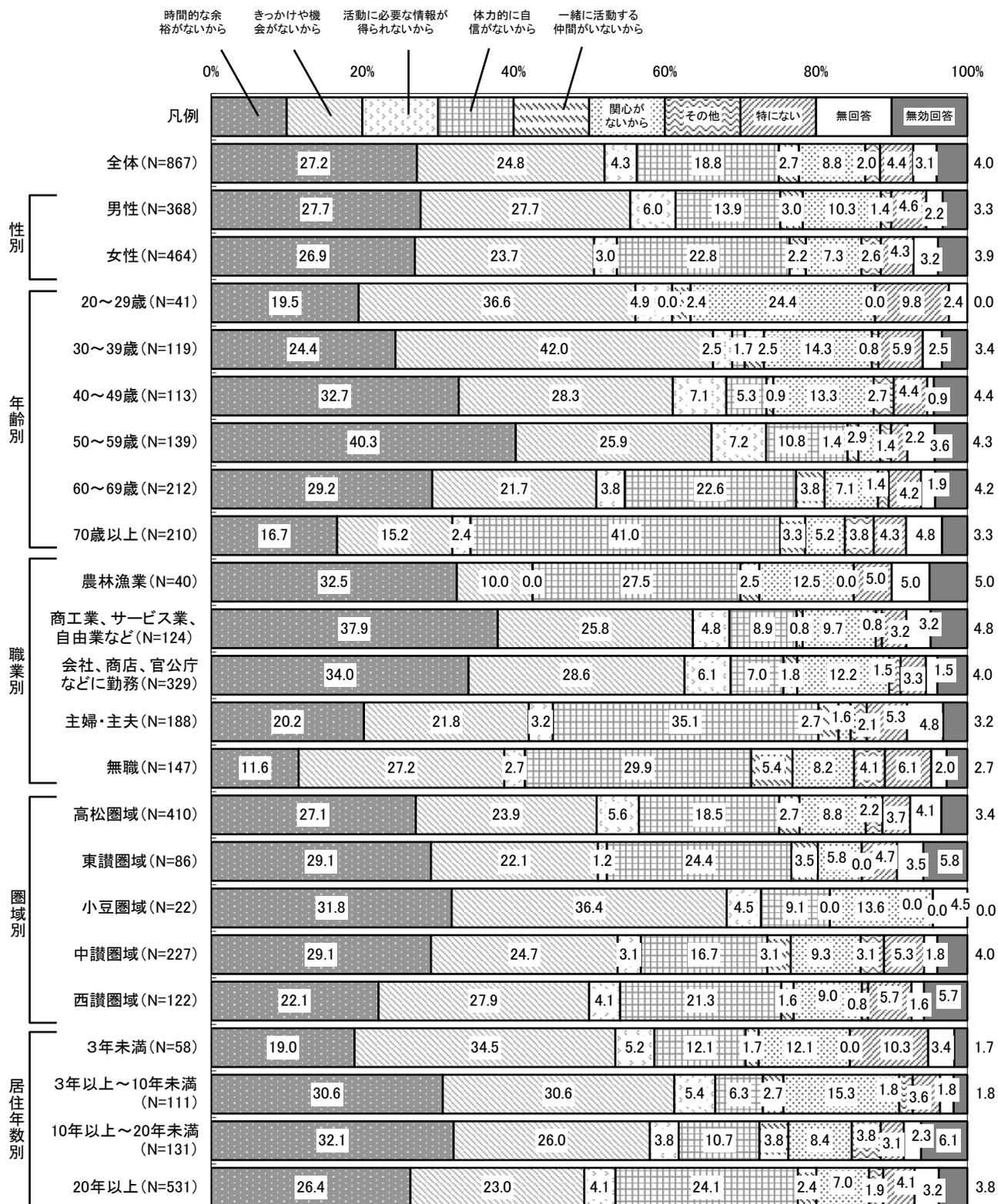
年齢別にみると、『20～29 歳』、『30～39 歳』では「きっかけや機会がないから」が最も高く、『40～49 歳』、『50～59 歳』、『60～69 歳』では「時間的な余裕がないから」が最も高くなっている。また、『70 歳以上』では「体力的に自信がないから」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では、いずれも「時間的な余裕がないから」が3割を超え最も高くなっている。一方、『主婦・主夫』、『無職』では「体力的に自信がないから」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』、『中讃圏域』では「時間的な余裕がないから」が最も高くなっており、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「きっかけや機会がないから」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「きっかけや機会がないから」が3割を超え最も高く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「時間的な余裕がないから」が最も高くなっている。また、『3年以上～10年未満』では「時間的な余裕がないから」、「きっかけや機会がないから」が同率で最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



(5) 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか

<問10で「2」または「3」と答えた方にお聞きします>

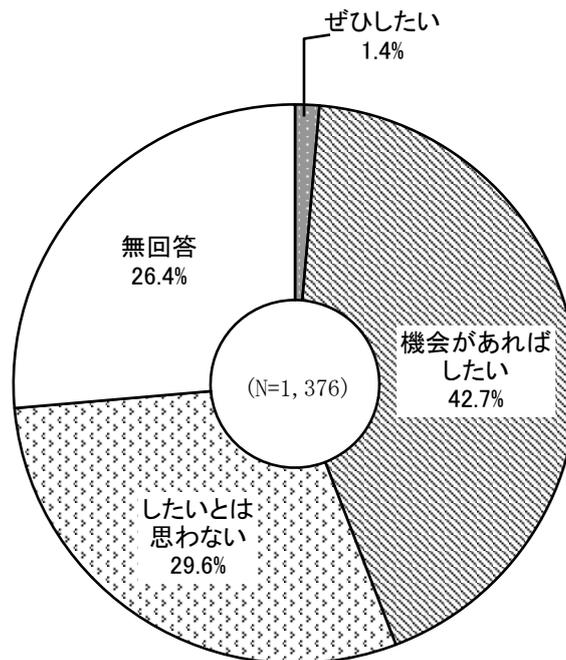
付問3 あなたは、今後ボランティアやNPO活動をしたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

[回答者数=1,376]

1 ぜひしたい	1.4%
2 機会があればしたい	42.7%
3 したいとは思わない	29.6%
(無回答)	26.4%

今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについては、「機会があればしたい」が42.7%と4割を超え最も高く、これに「ぜひしたい」の1.4%を合わせた【したいと思う】が44.1%となっている。一方、「したいとは思わない」は29.6%となっている。

< 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか >



性別にみると、男女とも「機会があればしたい」が4割を超え最も高く、その比率は『男性』は42.5%、『女性』は42.7%となっており、これに「ぜひしたい」を合わせた【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

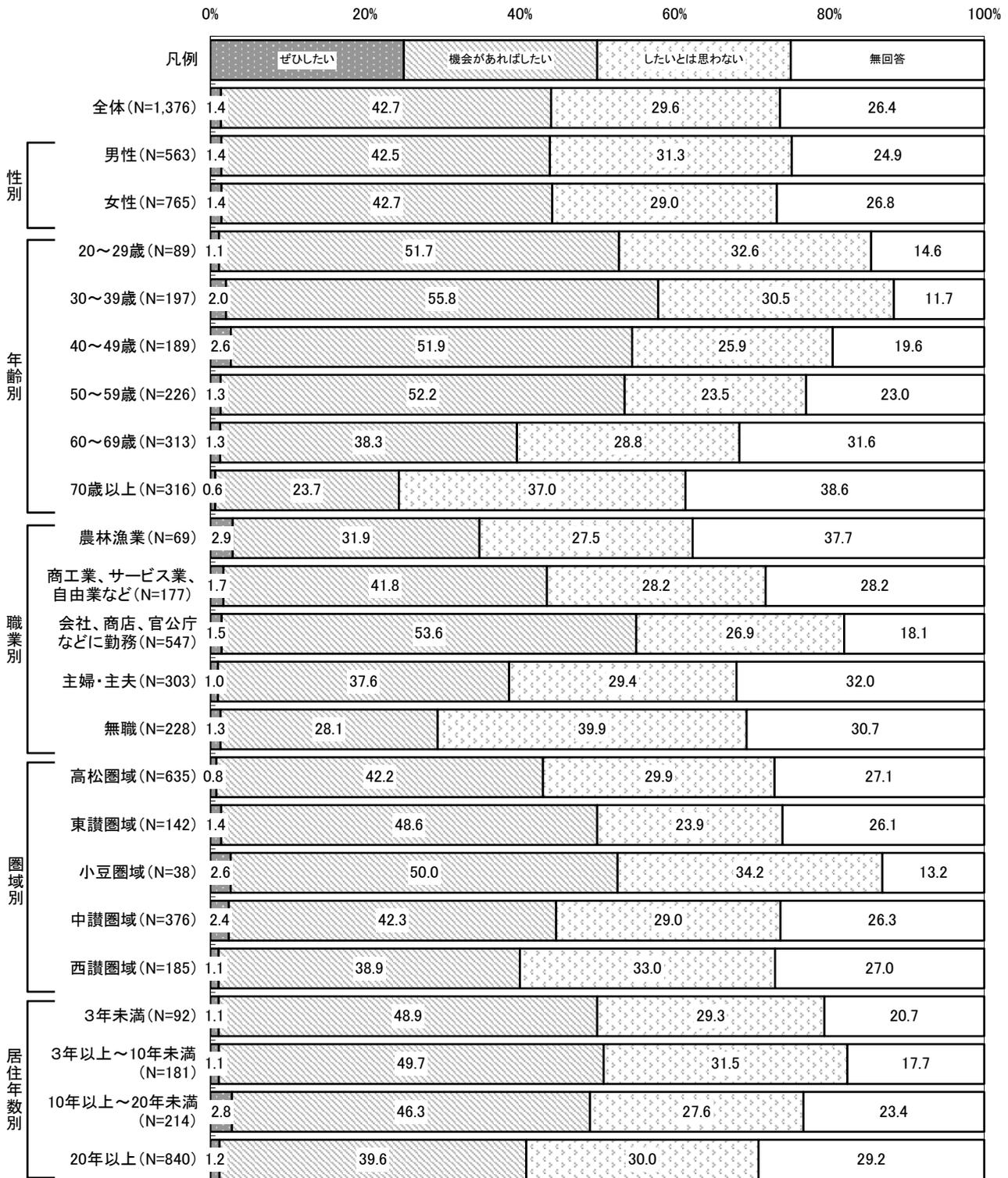
年齢別にみると、『70歳以上』では「したいとは思わない」が3割を超え最も高く、【したいと思う】を上回っている。一方、その他の年齢層では「機会があればしたい」が最も高く、【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

職業別にみると、『無職』では「したいとは思わない」が4割近くを占め最も高く、【したいと思う】を上回っている。一方、その他の職業では「機会があればしたい」が最も高く、【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

圏域別にみると、いずれも「機会があればしたい」が最も高く、特に『小豆圏域』では半数を占める。また、いずれも【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも「機会があればしたい」が最も高く、特に『3年未満』、『3年以上～10年未満』では半数近くを占めている。また、いずれも【したいと思う】が「したいとは思わない」を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか



(6) 今後、してみたいボランティアやNPO活動

<付問3で「1」または「2」と答えた方にお聞きします>

付問3 今後してみたいボランティアやNPO活動を問10付問1の1～20までの活動分野から2つまで選んで、番号を記入してください。

(1) …ぜひしたいと回答した人の希望する活動分野

(2) …機会があればしたいと回答した人の希望する活動分野

[回答者数=606]

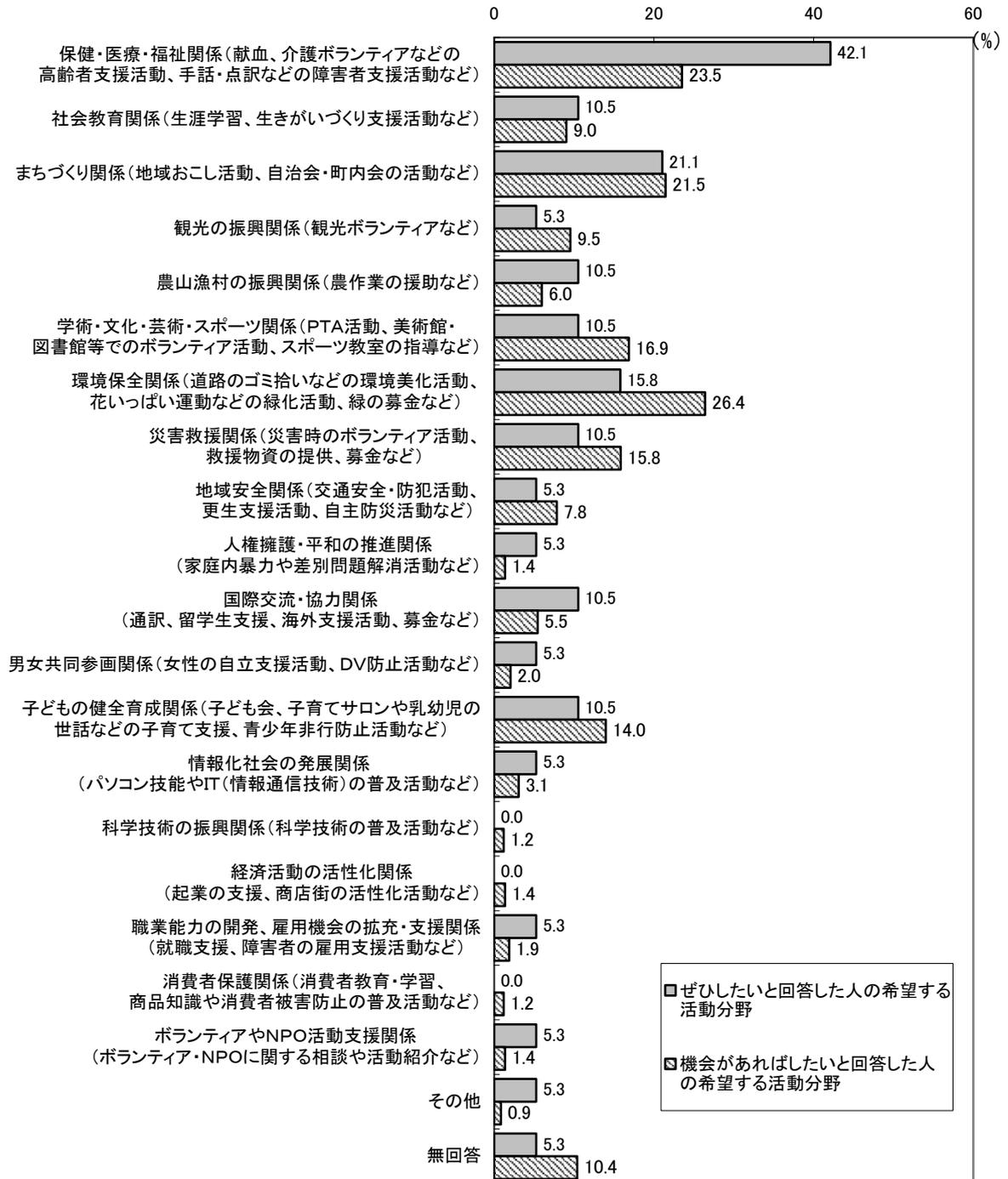
	(1)	(2)
1 保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	42.1%	23.5%
2 社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	10.5%	9.0%
3 まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	21.1%	21.5%
4 観光の振興関係（観光ボランティアなど）	5.3%	9.5%
5 農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	10.5%	6.0%
6 学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	10.5%	16.9%
7 環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	15.8%	26.4%
8 災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	10.5%	15.8%
9 地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	5.3%	7.8%
10 人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	5.3%	1.4%
11 国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	10.5%	5.5%
12 男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	5.3%	2.0%
13 子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	10.5%	14.0%
14 情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	5.3%	3.1%
15 科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.0%	1.2%
16 経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	0.0%	1.4%
17 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	5.3%	1.9%
18 消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	0.0%	1.2%
19 ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	5.3%	1.4%
20 その他（具体的に：)	5.3%	0.9%
無回答	5.3%	10.4%

今後、してみたいボランティアやNPO活動について、『ぜひしたいと回答した人の希望する活動分野』では「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」が42.1%で最も高く、次いで「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」が21.1%などとなっている。

また、『機会があればしたいと回答した人の希望する活動分野』では「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」が26.4%と最も高く、次いで「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」が23.5%などとなっている。

〈 今後、してみたいボランティアやNPO活動 〉

(N=606)



性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

今後、してみたいボランティアやNPO活動（ぜひしたいと回答した人の希望する活動分野）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	保健・医療・福祉関係	社会教育関係	まちづくり関係	観光の振興関係	農山漁村の振興関係	学術・文化・芸術・スポーツ関係	環境保全関係	災害救援関係	地域安全関係	人権擁護・平和の推進関係	国際交流・協力関係	男女共同参画関係	子どもの健全育成関係	情報化社会の発展関係	科学技術の振興関係	経済活動の活性化関係	職業能力の開発・雇用機会の拡充・支援関係	消費者保護関係	ボランティアやNPO活動支援関係	その他	無回答	
全体	19	42.1	10.5	21.1	5.3	10.5	10.5	15.8	10.5	5.3	5.3	10.5	5.3	10.5	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	5.3	5.3	
性別	男性	8	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	
	女性	11	54.5	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	
年齢別	20～29歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	30～39歳	4	50.0	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40～49歳	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	50～59歳	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
	60～69歳	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	70歳以上	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
職業別	農林漁業	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	商工業、サービス業、自由業など	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	会社、商店、官公庁などに勤務	8	50.0	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	
	主婦・主夫	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	
	無職	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
圏域別	高松圏域	5	80.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	東讃圏域	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
	小豆圏域	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	中讃圏域	9	22.2	0.0	33.3	0.0	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	西讃圏域	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
居住年数別	3年未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	3年以上～10年未満	2	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10年以上～20年未満	6	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	
	20年以上	10	40.0	10.0	30.0	0.0	10.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

今後、してみたいボランティアやNPO活動（機会があればしたいと回答した人の希望する活動分野）

(単位:%)

区分	回答者数(人)	保健・医療・福祉関係	社会教育関係	まちづくり関係	観光の振興関係	農山漁村の振興関係	学術・文化・芸術・スポーツ関係	環境保全関係	災害救援関係	地域安全関係	人権擁護・平和の推進関係	国際交流・協力関係	男女共同参画関係	子どもの健全育成関係	情報化社会の発展関係	科学技術の振興関係	経済活動の活性化関係	職業能力の開発・雇用機会の拡充・支援関係	消費者保護関係	ボランティアやNPO活動支援関係	その他	無回答	
全体	587	23.5	9.0	21.5	9.5	6.0	16.9	26.4	15.8	7.8	1.4	5.5	2.0	14.0	3.1	1.2	1.4	1.9	1.2	1.4	0.9	10.4	
性別	男性	239	12.1	7.1	26.8	8.4	7.1	17.6	26.4	19.2	15.5	1.7	5.4	1.7	7.1	4.2	2.9	1.7	3.3	1.3	1.3	1.3	10.0
	女性	327	31.5	10.4	18.3	10.7	4.9	17.1	26.0	14.1	2.4	1.2	5.5	2.4	19.6	1.8	0.0	1.2	0.9	1.2	1.5	0.6	9.5
年齢別	20～29歳	46	21.7	2.2	15.2	23.9	8.7	26.1	21.7	19.6	8.7	2.2	8.7	2.2	13.0	2.2	4.3	2.2	4.3	0.0	0.0	2.2	4.3
	30～39歳	110	27.3	9.1	24.5	13.6	2.7	18.2	20.0	16.4	8.2	0.0	9.1	0.0	20.0	2.7	0.0	1.8	4.5	0.0	1.8	0.0	6.4
	40～49歳	98	29.6	6.1	14.3	15.3	3.1	24.5	15.3	24.5	8.2	3.1	10.2	1.0	15.3	4.1	1.0	1.0	2.0	3.1	1.0	1.0	2.0
	50～59歳	118	31.4	10.2	19.5	6.8	8.5	20.3	27.1	14.4	5.1	0.0	1.7	5.1	17.8	2.5	3.4	1.7	0.0	2.5	1.7	0.8	5.1
	60～69歳	120	17.5	13.3	26.7	4.2	5.0	12.5	31.7	14.2	9.2	1.7	1.7	2.5	11.7	0.8	0.0	1.7	0.8	0.8	1.7	1.7	15.8
	70歳以上	75	6.7	8.0	28.0	1.3	9.3	4.0	41.3	9.3	9.3	2.7	4.0	1.3	4.0	5.3	0.0	0.0	1.3	0.0	1.3	0.0	26.7
職業別	農林漁業	22	22.7	9.1	18.2	9.1	13.6	4.5	31.8	4.5	9.1	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	31.8	
	商工業、サービス業、自由業など	74	23.0	9.5	27.0	8.1	5.4	17.6	21.6	12.2	9.5	0.0	6.8	4.1	14.9	0.0	0.0	2.7	4.1	0.0	1.4	0.0	12.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	293	24.2	9.2	21.8	11.6	6.5	21.5	22.9	19.5	7.2	1.0	6.8	1.7	14.0	3.8	2.0	2.0	1.4	1.7	1.4	1.4	4.8
	主婦・主夫	114	29.8	10.5	12.3	9.6	1.8	11.4	27.2	13.2	4.4	1.8	3.5	2.6	22.8	2.6	0.0	0.0	1.8	1.8	1.8	0.9	14.0
	無職	64	7.8	4.7	34.4	3.1	7.8	12.5	42.2	15.6	15.6	3.1	3.1	1.6	3.1	3.1	1.6	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	15.6
圏域別	高松圏域	268	23.1	9.0	22.0	11.9	6.3	14.9	29.5	14.9	7.5	1.9	4.9	2.6	14.2	3.0	1.5	1.9	1.5	1.1	1.1	1.1	7.1
	東讃圏域	69	27.5	7.2	26.1	4.3	4.3	18.8	24.6	17.4	7.2	0.0	5.8	1.4	15.9	2.9	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	14.5
	小豆圏域	19	42.1	0.0	31.6	0.0	5.3	5.3	21.1	26.3	0.0	0.0	5.3	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	21.1
	中讃圏域	159	25.2	9.4	15.1	9.4	5.7	20.1	19.5	17.6	11.9	0.6	7.5	1.3	13.2	3.8	0.6	0.6	3.8	2.5	1.9	0.6	11.9
	西讃圏域	72	12.5	12.5	26.4	8.3	6.9	18.1	33.3	11.1	2.8	2.8	2.8	2.8	13.9	2.8	2.8	2.8	0.0	0.0	1.4	1.4	12.5
居住年数別	3年未満	45	20.0	4.4	22.2	20.0	2.2	24.4	11.1	22.2	4.4	0.0	4.4	0.0	24.4	0.0	0.0	2.2	2.2	4.4	4.4	2.2	4.4
	3年以上～10年未満	90	20.0	7.8	24.4	12.2	4.4	23.3	25.6	17.8	12.2	1.1	6.7	1.1	20.0	3.3	0.0	1.1	1.1	1.1	1.1	2.2	2.2
	10年以上～20年未満	99	23.2	10.1	16.2	12.1	5.1	15.2	27.3	17.2	6.1	1.0	5.1	3.0	14.1	6.1	2.0	3.0	3.0	2.0	1.0	0.0	9.1
	20年以上	333	24.6	9.6	22.8	6.9	6.9	15.3	27.9	14.7	7.8	1.8	5.4	2.4	11.4	2.1	1.5	0.9	1.8	0.6	1.2	0.6	12.9